２０１９年度文部科学省委託事業「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」

認定動物看護師養成における
効果的な連携事業を行うためのガイドライン作成事業

成果報告書

一般社団法人 全国動物教育協会

目　次

1. 事業概要
　1－1. 事業の概要 ・・・・・・・・・・・・・・・1
　1－2. 本ガイドラインの趣旨・目的 ・・・・・・・・・・・・・・・2
　1－3. 本ガイドラインの適応範囲 ・・・・・・・・・・・・・・・2

2. 事業実施内容
　2－1. 事業計画 ・・・・・・・・・・・・・・・3
　2－2. 事業の内容 ・・・・・・・・・・・・・・・4
　2－3. 事業成果の継続性（課題と活用） ・・・・・・・・・・・・・・・13

3. 事業の実施体制、及びスケジュール
　3－1. 構成員・構成機関・実施体制 ・・・・・・・・・・・・・・・15
　3－2. 事業の推進体制 ・・・・・・・・・・・・・・・17
　3－3. 事業実施スケジュール ・・・・・・・・・・・・・・・20

4. 実施委員会　活動報告
　4－1. 実施委員会の目的、及び活動内容 ・・・・・・・・・・・・・・・21
　4－2. 実施委員会の実施記録 ・・・・・・・・・・・・・・・21
　4－3. 成果報告会 ・・・・・・・・・・・・・・・25

5. ガイドライン作成委員会　活動報告
　5－1. ガイドライン作成委員会の目的、及び活動内容 ・・・・・・・・・・・・・・・27
　5－2. ガイドライン作成委員会の実施記録 ・・・・・・・・・・・・・・・27
　5－3. 作成物／ガイドライン・教育支援ツール ・・・・・・・・・・・・・・・35

6. ガイドライン導入推進委員会　活動報告
　6－1. ガイドライン導入推進委員会の目的、及び活動内容 ・・・・・・・・・・・・・・・45
　6－2. ガイドライン導入推進委員会の実施記録 ・・・・・・・・・・・・・・・45

7. 実証委員会　活動報告
　7－1. 実証委員会の目的、及び活動内容 ・・・・・・・・・・・・・・・53
　7－2. 実証委員会の実施記録 ・・・・・・・・・・・・・・・53
　7－3. 実証結果と課題 ・・・・・・・・・・・・・・・57
　7－4. 事業成果の活用 ・・・・・・・・・・・・・・・60

8. 研修会
　8－1. 研修会の目的 ・・・・・・・・・・・・・・・61
　8－2. 研修会の実施記録 ・・・・・・・・・・・・・・・61
　8－3. 研修会の結果と課題 ・・・・・・・・・・・・・・・64

謝　辞 ・・・・・・・・・・・・・・・67

1．事業概要

1-1．事業の概要

現在の認定動物看護師養成では、教育課程の終わりに全国統一の認定試験が実施されている。その受験要件は認定動物看護師教育コアカリキュラム2019（以下：コアカリキュラム）の履修が必修となっており、そのため一般財団法人動物看護師統一認定機構より受験可能校として認定を受けた全国の動物系専修学校68校、及び一般社団法人日本動物保健看護系大学協会の加盟大学8校がコアカリキュラム教育を実施している。現在のコアカリキュラムでは、各科目のコマシラバスも提示され、カリキュラムの平準化として一定の成果が得られており、認定試験を受験するための教育水準の維持についても大きな成果をあげている。

しかしながら、今後の愛玩動物に対する医療の高度化に対応し、チームで行う愛玩動物の医療に貢献するという観点からは、さらなる実践的な能力を高め、その能力の標準化を図ることが、動物看護師養成教育には期待される。具体的に多くの国家試験において、その実践能力を高めるために、企業との連携による企業実習がプログラムとして組み込まれ、受験要件として設定されて、知識や技能を実践・修練する場となっている。

コアカリキュラムの科目構成には、動物病院や企業内での実習「動物看護総合実習」が180時間設定されている。しかし、現状では、実施時期や動物医療系基礎科目との連携、学内実習との接続性などが明確になっていないため、動物病院実習における目的、方法、学習成果・評価について具体的に示し、実習先の動物病院側と実習する学生が十分に理解し、実習効果を確保する必要がある。

講義科目と実習科目との関連性、学内での実習科目とコアカリキュラム「動物看護総合実習（動物病院実習）」との関連性、目的なども整備されていない。そのため、教育機関の状況と受け入れ側の動物病院の実情により、実習内容や受け入れ期間、評価についても十分な整理がされないまま動物病院実習が実施されている。その主な点は、本事業での動物病院を対象にしたアンケート調査からも、動物病院側は求職、或いは求人のための実習という、いわゆる新人動物看護師の採用を目的にしたインターンシップ的な取り組みであり、改めて教育的見地から認定動物看護師を養成するための実習という観点で再整備が必要である。

犬・猫などの愛玩動物は、近年、家族の一員としてかけがえのない存在となり、飼育者の求める愛玩動物に対する医療レベルも高度化し、愛犬・愛猫の長寿化・高齢化などもあり、より適切な愛玩動物の医療やケアサービスなどの提供が望まれている。そのため、動物病院における動物看護師の役割の拡大、質の向上、業務の適正化を図ることを目的に、2019年6月28日、動物看護師の国家資格化を定めた愛玩動物看護師法が公布された。本ガイドラインは新たにスタートする国家資格「愛玩動物看護師」の養成教育にも活用できることを期待している。

1-2.　本ガイドラインの趣旨・目的

本ガイドラインでは、文部科学省委託事業における認定動物看護師のコンピテンシーディクショナリー（認定動物看護師CD）を整理し、この認定動物看護師CDを基準としてコアカリキュラムの「動物看護総合実習」を体系化した。そして、実習の目的・目標を設定し、学習成果指標を明確にしたうえで、実習内容・活動、指導要領、評価項目を提示し、教育現場、及び実習受け入れ先の動物病院において、適切かつ円滑な教育実施を図るものである。

また、実習中だけでなく、実習前後の教育も動物看護総合実習の科目として組み込み、認定動物看護師養成課程における学生の実践力の向上、及び職業観の育成を図ることとした。学生が指導者の指導・助言を受けながら、チームで行う愛玩動物に対する医療の一員として、主体的に動物看護の実践的な学びの場とする事を目的にしている。

1-3. 本ガイドラインの適応範囲

本ガイドラインで示す適用範囲は、一般財団法人動物看護師統一認定機構が推奨する「認定動物看護師教育コアカリキュラム2019」に科目設定されている「動物看護総合実習」（180時間）である（関連科目との相関関係はカリキュラムマップを参照）。

2. 事業実施内容

2-1. 事業計画

1. 動物看護総合実習の目標・目的の最適化とガイドラインの完成
   2017年度、2018年度事業で整備した3段階に階層化した実習実施案を再度詳細に検証し、その目標・目的について最終的な集約を行う。その上で、専修学校において網羅的に対応できることを前提に、理解型実習（2日から3日程度）、体験型実習（5日から10日程度）、実務型実習（5日から10日程度）の3パターンの実施案を整備する。
   ※2019年度事業より、昨年度事業までの体験型実習は理解型実習に、補助型実習は体験型実習に名称を変更。

2. 動物病院実習における各教育評価項目の作成（学生・専修学校・動物病院）
   各実習の評価方法を学生・専修学校・動物病院別に作成し、実証が可能かどうかの検討を行う。また、ガイドライン自体の検証を行う必要があることから、事業プログラム全体の評価を行うことについても検討する。

3. 教育支援ツールの整備
   動物病院での実習実施に際し、動物病院と取り交わす書類、学生が実習内容を記録し蓄積する書類、また評価を行うための評価表等、実習に関わる教育支援ツール等を整備し作成する。

4. 説明研修会の実施
   専修学校の担当者、教員を対象にした説明研修会を8月22日（木）に、実習において指導的な立場となる現職の動物看護師を対象にした説明研修会を10月27日（日）に開催する。

5. 動物病院実習ガイドラインの実証と検証
   作成されたガイドライン案、及び教育支援ツールを活用した実証を、専修学校10校で実施する。
   実証後に十分な検証を行い、より多くの専修学校で動物看護総合実習の円滑で効果的な実施が可能になるよう、ガイドラインの導入促進を図る。

6. 成果報告会の開催
   2019年度事業での取り組みや作成した動物病院実習ガイドライン、教育支援ツール、今後の課題などを発表する成果報告会を、2020年2月18日（火）に開催する。
   教育支援ツールのダウンロードサイトを一般社団法人全国動物教育協会のホームページに設置する。

2-2. 事業の内容

（1） 事業の趣旨・目的について

現在の認定動物看護師養成は全国統一の試験が実施され、その受験要件として認定動物看護師教育コアカリキュラム2019を履修する事となっており、認定を受けた全国の動物系専修学校68校と、一般社団法人日本動物保健看護系大学協会の加盟大学8校がコアカリキュラム教育を実施している。

コアカリキュラムの科目構成には、動物病院や企業内での実習（動物看護総合実習）が180時間組み込まれているが、実施時期や、獣医系基礎科目との連携、校内（学内）における諸実習との接続性等が明確になっていないため、現状は動物病院実習における目的、教育効果、またその評価について整備されていない。より実践的な能力を高めその能力の標準化を図る事は、獣医療業界にとっても利する事となりうる。

①上記の背景より、各教育機関で実施されている動物病院実習の実態を調査し、前後の教育学習との接続性、連携（目的）の位置づけを明確にする。その上で企業との連携による企業内実習の実習項目、教育効果、教育評価についての検討を行い、能動的な教育効果が得られるよう体系化についても検討した。

②上記の検討内容を参考にして企業内実習のガイドラインを作成し、教育機関、及び実習に協力する企業に対する周知を実施し、認定動物看護師養成分野の実習に関する教育の質保証・向上に取り組んだ。

（2） 産業界と連携した教育を実施する上での課題

コアカリキュラムを整備し、殆どの教科のモデルコマシラバスも提示ができ、動物看護師養成教育の平準化が計れたが、「動物看護総合実習」＝動物病院実習のコマシラバスに値する実習内容は平準化できていない状況にある。

実習を受け入れる側の動物病院では、複数の専修学校から学生を実習に受け入れているケースが多く、それぞれの専修学校における履修状況が一律でないため、実習内容を整えることができにくい実態がある。そして、日々診療内容が変化する臨床現場では、実習の目安となるガイドライン等がないため、均等性の取れない実習での受け入れをせざるを得ない状況である。

専修学校側はガイドラインが整備されていないことから、学習目標を示して動物病院実習を受け入れ側の動物病院に的確に提案することができず、専修学校側が期待、希望する実習となり得ていない状況にある。そして、過去からの慣例で動物病院実習は就職内定を目的にした動物病院実習、いわゆるインターンシップが多くの専修学校で行われている。

一方、就職を目的にした実習も動物病院側としては求人活動として活かせることから、有意義な実習受け入れであることが動物病院を対象にしたヒアリング調査でも収集ができている。

これらのことから、日々変化する臨床現場においては固定化された実習内容ではなく、弾力的な実習内容としてのガイドラインを作成することが必要であると思われる。また、「就職を目的にした動物病院実習」と「コアカリキュラムとしての学習目標に沿った動物病院実習」の棲み分け、或いはその両方に対応が可能な実習ガイドラインを作成していくことが課題であると考える。同時に動物病院側で指導者の役割を担う動物看護師の指導力を養うことも重要な課題である。

事業実施後、新たに明らかになった上記の課題に加え、専修学校側では事前・事後教育にかなりの時間を要することが判明した。指導の主体が個別指導によって学習効果を上げていることも判明しており、継続的な指導と面談等の時間をいかに確保するかが大きな課題である。

また、受け入れ側の動物病院に対して実習の目的を理解し協力を得るためには、地域の獣医師会との連携を普段から構築しておくことも重要な課題であることが明確になった。

（3） ガイドラインの作成方針

＜事業実施により得られた知見・指摘、及び課題とガイドラインにおける対応＞

本事業ガイドライン作成にあたっては、昨年度までの事業成果を活用しながら、株式会社三菱総合研究所により提示された、「専修学校版デュアル教育」分野別ガイドライン作成要領に準拠した形式を参考に、下記目標を達成するための手法を策定しガイドライン作成にあたった。

○ 動物看護総合実習ガイドラインの到達目標

1．平準化と、弾力的な実習内容

動物看護総合実習の位置づけを明確にするカリキュラムツリーを策定し、他関連科目との関係性を明らかにし、実習細目は設定せずに実習項目チェックリストで確認することとした。

2．就職を目的とした実習から、学習成果を基準とする教育目標を設定した段階的な実習の実施

段階的な実習体制を構築し、各段階における実習目的と目標を設定した。

3．関連教科と「動物看護総合実習」の接続性と学習歴の確認

作成されたカリキュラムツリーを基に履修歴チェックシートを活用し、学生自身の履修歴を確認させて実習先に提出させることとした。

4．学生の学習活動の体系化（学生の主体的な学び）

標準的な学習工程を設定し、実習前教育・実習中・実習後教育と設定を行った。

5．評価の整理（学生の自己評価・実習先の評価・教科としての評価）

各段階に分かれた実習段階における教育の目的・目標に対応した評価指標を設定し、その評価項目の要素として、文部科学省委託事業一般社団法人専門職高等教育質保証機構が受託した「学習成果の測定に向けた職業分野別コンピテンシー体系の研究」の事業成果であるレベルディスクリプター（学習成果指標）を参考として設定を行った。

6．指導者研修（教員・実習指導者を対象）

実習前・実習後教育、また実習中の指導における観点として、学生の自発的活動を促す指導方法としてコーチングスキルや人権教育等が必要であることから実施を計画。しかし、時間的な制約があり調整が難しいため、実証ではガイドラインの説明と活用事例についての研修となった。この点については実習前・実習後教育と実習中の指導が同じ教育目標の上で実施されるべきであり、今後の課題として同じ条件下での研修が必要不可欠である。

7. 実習先への協力依頼

従来の動物病院実習ではなくガイドラインに示す教育的観点での動物病院実習となるため、実習受け入れ先に目的の変更について十分に理解していただくことが重要である。そのため、実習提案書を作成し、地元獣医師会との連携実証を行った。

8. 事業の改善

本ガイドラインを活用し動物看護総合実習を実施後、実習の振り返り、改善等を協議できるように、プログラム評価・改善資料を作成した。本ガイドラインにおいては「職業実践専門課程」を想定し、教育課程編成員会や学校関係者評価委員会等で活用できる形式とした。

＜ガイドラインの構成、骨子等＞

○ 作成を行った本ガイドラインの骨子は以下のとおりである。

1. 専修学校版デュアル教育の概要
- ・認定動物看護師分野における専修学校教育の課題
- ・ガイドラインの趣旨・目的
- ・ガイドラインの適用範囲

2. デュアル教育の要点
- ・デュアル教育の定義と教育目標
- ・デュアル教育の特徴・基本方針
  - 教育の実施主体と学習者
  - 教育手法の違い、改善が見込まれる教育課題
  - デュアル教育に関わるプレーヤー
- ・標準的なカリキュラムモデル

3. デュアル教育の内容と構築方法
- ・デュアル教育の準備～実施～評価～改善フロー
- ・デュアル教育の概要企画（Plan）
- ・デュアル教育の概要実施(Do)
- ・デュアル教育の概要評価（See）

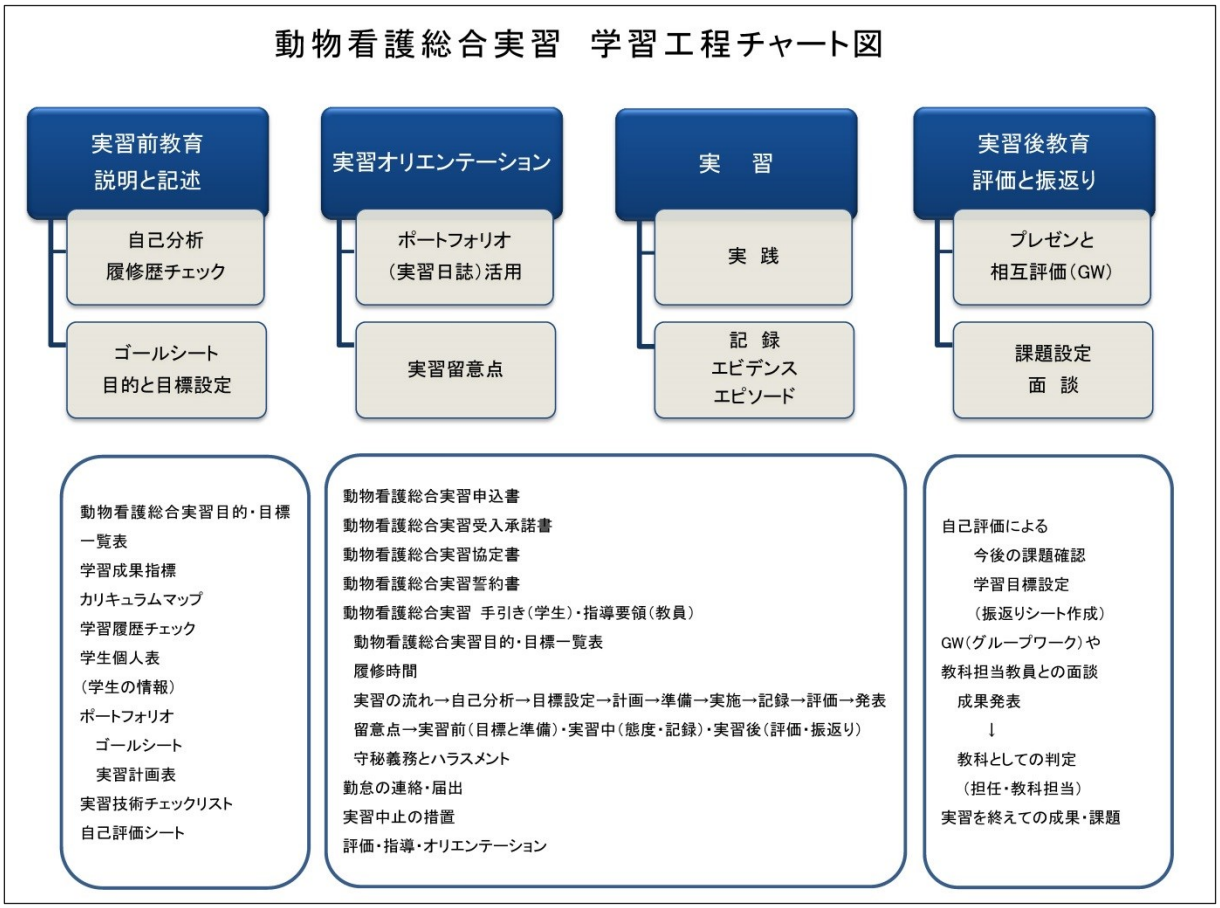
4. 教育支援ツール

5. その他の留意事項（課題と対策）

6. 本ガイドラインの作成プロセス

付録：教育支援ツール集

○　学習活動の実習前教育・企業連携実習・事後学習の対応関係は以下のとおりである。
本ガイドラインでは、〈2. デュアル教育の要点　標準的なカリキュラム　■表2－4　動物看護総合実習学習工程チャート図〉として提示したものである。



○　実習前教育

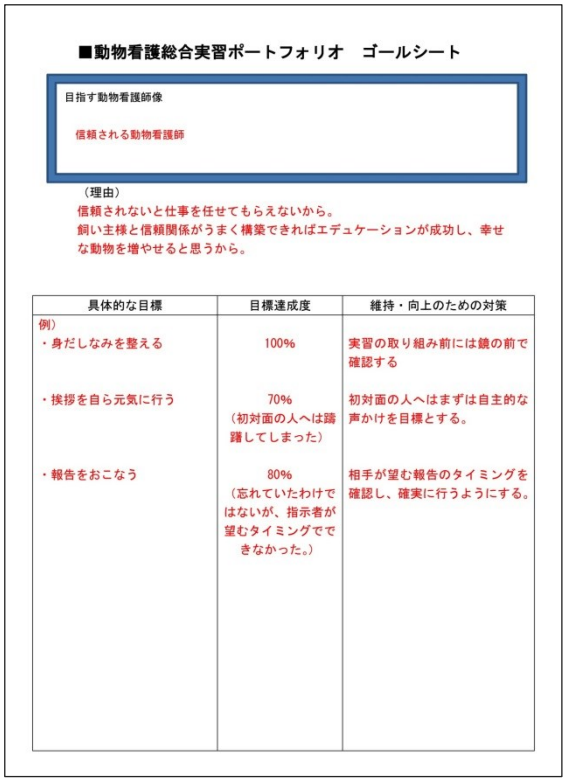
1. 学生は学習成果指標の説明を受け、学習目的・目標を把握し、どのような評価を受けるのか理解する。
2. 実習に関する学習の流れや内容を理解する。
3. その上で自己の学習履歴を振り返り、履修科目の習得を確認し、同時に自己分析を行う。
自己分析では、自身がどのような動物看護師になりたいか、目指す動物看護師像を明示する。
4. 自己分析を基に各自の実習目的・目標を設定し、成果をあげるための具体的に実習計画を立案する。
5. 実習先が決定し実習手続きが完了した時点で、できるだけ実習先の事前調査を行う。

○　オリエンテーション

1. 学生はポートフォリオの活用方法についてレクチャーを受け、記録方法を学び予備練習を行う。
2. 実習項目チェックリストの記録方法を学ぶ。
3. 実習中の心得・態度・服装等の注意・留意事項について学ぶ。
4. 守秘義務やSNS等の情報発信について留意しなければならない点を学ぶ。
5. 事故や突発的な事象が起こった場合の対応や連絡方法、保険等の手続きについて学ぶ。

○ 教育支援ツールの一例

4.11 ポートフォリオ（一部／ゴールシート）



■動物看護総合実習ポートフォリオ　ゴールシート

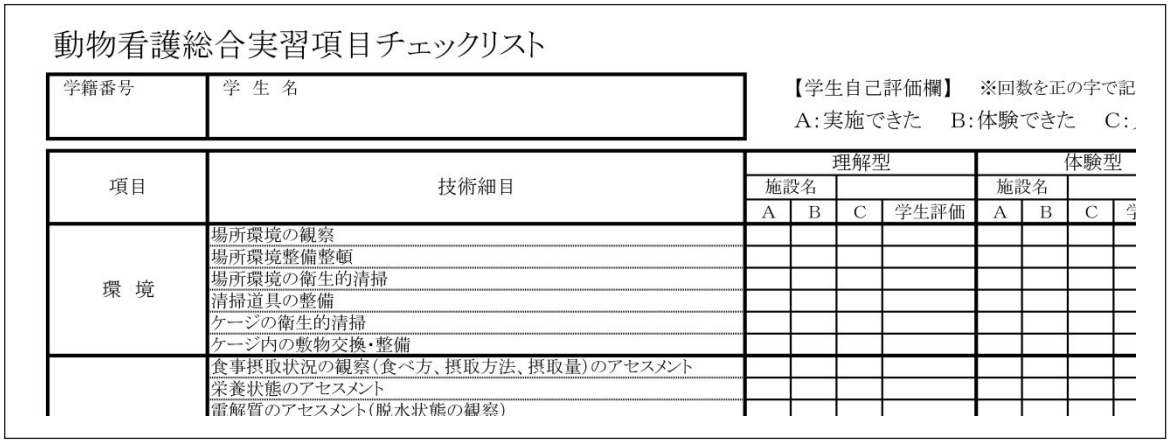
目指す動物看護師像

信頼される動物看護師

（理由）
信頼されないと仕事を任せてもらえないから。
飼い主様と信頼関係がうまく構築できればエデュケーションが成功し、幸せな動物を増やせると思うから。

具体的な目標	目標達成度	維持・向上のための対策
例） ・身だしなみを整える	100%	実習の取り組み前には鏡の前で確認する
・挨拶を自ら元気に行う	70% （初対面の人へは躊躇してしまった）	初対面の人へはまずは自主的な声かけを目標とする。
・報告をおこなう	80% （忘れていたわけではないが、指示者が望むタイミングでできなかった。）	相手が望む報告のタイミングを確認し、確実に行うようにする。

4.14 動物看護総合実習項目チェックリスト（一部）



動物看護総合実習項目チェックリスト

学籍番号	学 生 名

【学生自己評価欄】　※回数を正の字で記

A:実施できた　B:体験できた　C:

項目	技術細目	理解型				体験型			
		施設名				施設名			
		A	B	C	学生評価	A	B	C	
環　境	場所環境の観察								
	場所環境整備整頓								
	場所環境の衛生的清掃								
	清掃道具の整備								
	ケージの衛生的清掃								
	ケージ内の敷物交換・整備								
	食事摂取状況の観察（食べ方、摂取方法、摂取量）のアセスメント								
	栄養状態のアセスメント								
	電解質のアセスメント（脱水状態の観察）								

○ 実習中

1. 指導者の指示のもと実習を行うと共に記録し、実習指導者より評価を受ける。
2. 学校や巡回指導者との連携を欠かさないよう務める。

○ 実習後

1. 実習先に対してお礼状を送付する。
2. 振り返りの学習活動として、ポートフォリオの整理を行う。
3. 整理蓄積されたエビデンスやエピソードを基に自己評価を行う。
4. 自己評価を基に担任や科目担当教員との面談やGW（グループワーク）活動などにより、次期課題を設定する。
5. 実習で得た学習成果を発表やレポートにまとめる。

本ガイドラインで作成した教育支援ツールの種類、使用するタイミング、関連するプレーヤー、管理者については以下のとおりである。

○ デュアル教育で使用する教育支援ツールと関連するプレーヤー

時 期	使用ツール		関連するプレーヤー			管理者
			専修学校	学生	動物病院	
準備期間	4.1	動物看護総合実習 目標・目的一覧表	プラン作成		理解	専修学校
	4.2	カリキュラムツリー	課程検討	活用	理解	専修学校
	4.3	動物看護総合実習　学習工程チャート図	プラン作成		理解	専修学校
	4.4	動物看護総合実習提案書	依頼・開拓		検討	動物病院・専修学校
	4.5	動物看護総合実習申込書	作成・依頼		承諾	動物病院
	4.16	動物看護総合実習科目評価シート	作成・説明		理解	動物病院・専修学校
実習前	4.4	動物看護総合実習提案書	依頼・開拓		検討	動物病院・専修学校
	4.6	動物看護総合実習承諾書	締結		承諾	動物病院・専修学校
	4.7	動物看護総合実習協定書	締結		確認	動物病院・専修学校
	4.13 ①	動物看護総合実習実習手引き(学生)		理解		学生・専修学校
	4.13 ②	動物看護総合実習実習手引き・指導要領	指導			学生・専修学校
	4.16	動物看護総合実習科目評価シート	説明		確認・理解	専修学校
	4.1	動物看護総合実習 目標・目的一覧表	学生指導	理解		専修学校
	4.2	カリキュラムツリー	学生指導	理解		専修学校
	4.3	動物看護総合実習　学習工程チャート図	学生指導	理解		専修学校
	4.8	動物看護総合実習誓約書	説明	作成	受理	動物病院
	4.9	カリキュラムマップ・履修歴チェックシート	説明	履修歴	履修歴確認	専修学校
	4.10	自己分析シート	説明	作成		学生
	4.11	ポートフォリオ	学生指導	作成		学生
	4.12	学生個人表	説明	作成	準備	学生
	4.13 ①	動物看護総合実習実習手引き(学生)		理解		学生・専修学校
	4.13 ②	動物看護総合実習実習手引き・指導要領	指導			学生・専修学校
	4.15	動物看護総合実習自己評価シート	説明	理解		学生
	4.16	動物看護総合実習科目評価シート	説明・依頼		理解	動物病院・専修学校
	4.17	動物看護総合実習学習成果指標【体験型・実務型】	説明		理解	動物病院・専修学校
実習中	4.11	ポートフォリオ		記録	確認	
	4.13 ①	動物看護総合実習実習手引き(学生)		活用		学生
	4.14	動物看護総合実習項目チェックリスト		記録	確認	学生
	4.16	動物看護総合実習科目評価シート			評価	動物病院・専修学校
	4.17	動物看護総合実習学習成果指標【体験型・実務型】			理解	
実習後	4.11	ポートフォリオ		記録	確認	学生
	4.15	動物看護総合実習自己評価シート		自己評価		学生
	4.16	動物看護総合実習科目評価シート	回収		評価	専修学校
	4.17	動物看護総合実習学習成果指標			評価	専修学校
事業終了後	4.18 ①	動物看護総合実習プログラム評価・改善資料（動物病院）	課題	課題検出	改善提案	動物病院・専修学校
	4.18 ②	動物看護総合実習プログラム評価・改善資料（学生）				学生・専修学校

（4）具体的な取り組み

○ 計画の全体像

〈2017年（平成 29 年）度事業概要　実施済み〉

1．動物病院実習の実態調査

各地域、各専修学校で行われている動物病院実習に関する実態を調査するため、専修学校68校（アンケート方式）と24の動物病院（訪問調査方式）に対して実態調査を実施した。

調査内容の概要：動物病院実習の実施状況・目的・内容、動物病院選定方法、学生サポート、実習前・実習後の教育指導法・準備等、実習中のトラブル・クレーム・巡回指導等、実習における問題点や課題点の抽出、提案・意見収集等。

2．カリキュラムマップ（案）の作成

認定動物看護師教育コアカリキュラム2019（以下：コアカリキュラム）で示された「動物看護総合実習」では、学習目標を「習得した知識の実践力を身につける」としており180時間が想定されている。この内、動物病院での実習は90時間とすることが望ましいとされており、「動物看護総合実習」の時期を1年次末（春）と2年次夏期に想定したカリキュラムマップ（案）を作成した。

3．教育支援ツールの検討

動物病院実習を実施する際、契約や協定書に関するツールや、教育内容に関するツール、渉外に関するツール等が散在する事が判明したため、実態調査と合わせて専修学校各校へ提供を依頼したことで、評価シートや実習内容細目表などを収集することができた。

4．動物病院実習ガイドライン草案の検討

作成されたカリキュラムマップと収集したデータを参照し、デュアル教育のガイドラインの項目ごとに検証を行い、「動物看護分野デュアル教育ガイドライン」骨子案を作成した。

「動物看護分野デュアル教育ガイドライン」

① 動物病院実習の在り方・目標
② 枠組、要件
③ 専修学校への指針
④ 実習施設（動物病院）への指針
⑤ 指導する動物看護師への指針
⑥ 実習内容
⑦ 評価

5．中間報告会の開催

2017年度事業の進捗について中間報告会を2018年2月28日（水）に開催した。

〈2018年（平成 30 年）度事業概要　実施済み〉

1．動物病院実習の体系化（時期・目的・教育効果）とカリキュラムマップの再検討

専修学校に対して改めて、2017年度事業で確認された課題や2017年度事業の成果について収集した意見等を詳細に検証した。その上で、コアカリキュラムでの動物病院実習の開始時期や教育目標やその効果を精査し、動物病院実習の体系を見出した。また、カリキュラムマップの再検証を行った。

2．動物病院実習ガイドラインの作成

作成されたカリキュラムマップと段階化された動物病院実習のガイドライン原案を作成した。ガイドラインは、地域性、病院規模、専修学校において網羅的に対応できることを念頭に、理解型実習（数日程度）、体験型実習（1 週間から10日程度）、実務型実習（10日以上）の3パターンを想定し、ユニットで組み合わせできることも検討した。

3．動物病院実習における各教育評価項目の作成（学生・専修学校・動物病院）

各実習の評価法を学生・専修学校・動物病院別に作成し、実証が可能かどうかの検討を行った。またガイドライン自体の検証を行う必要がある事から、事業プログラム全体の評価を行うことについても検討した。

4．動物病院実習ガイドライン・評価のアンケート調査・分析

上記事業についての改善・修正を行うために、対象となる専修学校68校と前年度協力をいただいた動物病院をはじめ他の動物病院にも協力を要請し、アンケート調査を実施した。

5．動物病院実習ガイドラインの実証

作成されたガイドラインに基づき実証を4地域で行った。

6．実証後の検証

実証後の検証を行い、次年度完成年度に向けての改善点を取りまとめた。

7．中間報告会の開催

2018年度事業進捗について中間報告会を2019年2月4日（月）に開催した。

○ 今年度の具体的活動

〈2019年（令和元年）度事業概要　実施事項〉

1．動物病院実習ガイドライン完成版の作成

2017年度、2018年度の実証結果や成果を活かし、ガイドラインを完成させた。

2．動物病院実習ガイドラインの実証

2017年度、2018年度に整えた動物病院実習ガイドラインの実施案に基づき、理解型実習・体験型実習・実務型実習を、全国10校の専修学校において可能な限り実証を行った。

3．専修学校指導担当教員の理解促進

学習効果を目的にした実習についての説明と合わせ、学生が自主的に意欲を持って実習に取り組むための事前学習、オリエンテーションの導入、コーチングの手法についての説明を行った。
また、実習先への説明について確認した。（実証前、8月22日（木）に研修会を実施）

4．動物病院実習ガイドラインの整備

各階層における実習の目的・目標について修正を行った。
実証後の検証結果を基にガイドラインを完成版としてまとめた。

5．動物病院実習ガイドライン説明会の開催

実習を受け入れる動物病院における学生の指導、評価等について、より適切に実施してもらえるよう指導者研修を実施した。しかし、日程の関係で10月27日（日）1 回だけの開催実施となった。

6．動物病院の動物看護師を対象にした指導者研修の実施

事業計画では専門学校教員が各地の受入先動物病院での指導者（動物看護師等）に説明することであったが、スケジュールの問題から計画を変更し、一般社団法人全国動物教育協会と一般社団法人全国動物専門学校協会が共催で毎年開催している動物看護師教員研修会にて本ガイドライン説明を行い（57名）、実証実施校にて対象となる動物病院に対して個別説明を行った。その中で、公益社団法人東京都獣医師会、及び公益社団法人千葉県獣医師会には組織的な協力要請を行い、実証事業との連携を図った。

7．成果報告会

3年間の事業の締めくくりとして成果報告会を2020年2月18日（火）に開催した。
成果報告会には専修学校、主な受け入れ先企業である動物病院の関係者、関係省庁、獣医師会、獣医師関連の団体関係者、出版社等から、96名の参加があった。

2-3. 事業成果の継続性 （課題と活用）

本事業では、現在実施されている認定動物看護師養成のための、一般財団法人動物看護師統一認定機構が推奨しているコアカリキュラムで示されている、動物病院や企業内での実習「動物看護総合実習」を対象としたガイドラインの作成に取り組んだ。その理由として、現在行われている実習が、実施時期や基礎科目との連携、学内の実習との接続性などが明確になっておらず、また動物病院実習における目的・学習成果・評価についても曖昧であるという課題が存在した。その課題を解決するため、現状のインターンシップといわれる職業体験プログラムから、教育課程の一部として学習成果を求める“実習ガイドライン”というコンセプトに基づいて作成されたものである。

今後の愛玩動物に対する医療の高度化と、チームで行う動物病院業務への貢献という観点から、さらなる実践的な能力の向上とその能力の平準化を図る事が、動物看護師養成教育に期待される。2019年6月に動物看護師の役割の拡大、質の向上、業務の適正化を図ることを目的に制定された「愛玩動物看護師法」においても、この教育効果を目的に作成された動物病院実習ガイドラインが、動物看護師の国家資格化の目的に則して活用され、同時に、本事業の成果がその一助となれば幸いである。

多くの国家試験では、その実践能力を高めるために、企業との連携による企業実習は、教育課程プログラムに組み込まれている。さらには受験要件としても設定され、知識や技能を実践の場で修練する場として位置づけられており、その際には、本事業でのガイドラインの活用可能な範囲であると推察される。

しかし、実際にガイドラインを活用した実習の実施を想定した場合、本事業では取り組むことができない課題点があったことも事実である。以下に今後の課題を記載する。

○ 本ガイドライン活用の課題と対策（国家資格カリキュラムにおける活用を含む）

1. （課題） 専修学校教員の資格要件と研修システム

（対策） 教員資格要件は愛玩動物看護師法における指定要件にて提示されることが見込まれている。動物病院（臨地）実習での指導者に対しても、要件がいつ提示されるか現時点では未定であるが、研修として専修学校教員と実習先指導者との指導方法、相互理解も含め合同で実施することが望ましいと考える。（一社）日本動物看護職協会の協力を得ること、また職業実践専門課程の企業連携実習の発展版として研修システムを今後、検討・開発していくことも必要である。

なお、毎年実施している本事業受託代表の（一社）全国動物教育協会と（一社）全国動物専修学校協会の共催による夏季動物看護教員研修に、実習指導者となる現職の動物看護師も参加できるよう、今後検討する。

2. （課題） 動物病院における実習指導者要件と研修システム

（対策） 1. の対策で示したように指導方法をはじめ動物病院業務の現況など相互理解の必要性があると考えられることから、相互に学び合う研修システムを検討・開発することが必要である。指導方法については、指導要領の改訂などで学習方法が時代によって変化すること

があり、一辺倒な指導では学生の学習成果を生み出せないこともあることから、専修学校教育の変化を実習先指導者も共有することが必要と思われる。一方、愛玩動物に対する医療も一層進化していくことが予測されるため、動物病院で求められる業務・技能・役割を教員も共有することが必要である。また、人権教育の指導方法も改善が進んでいることから、教育・指導に携わる者へ、その指導方法を研修として取り上げることが望ましい。

3. （課題） 今後指定される国家資格カリキュラムとコアカリキュラムの整合性

（対策） コアカリキュラムのレベルと質は一定の評価を得ていると思われる。但し、愛玩動物看護師法で新たに示された対象動物は愛玩動物に限られていること、獣医療の一部を担うことになること、動物の適正飼養に寄与することなどが、愛玩動物看護師として必要な知識と技能であることから、コアカリキュラムは基として踏まえていただきたいが、更なる教育の質の向上と確実な技術の修得を目指した国家資格カリキ ュラムが提示され、これに先導されていくことは必至と考える。

4. （課題） 実習指導料と知的財産権

（対策） 臨地実習の指定要件次第であるが、実習時間数や学習成果の求められるレベルによっては、受け入れ側の負担や指導責任が生じることも予測される。その場合には受入側へのる指導料の発生が必要となると考えられる。また知的財産権としてどのようなことが生じるかは不明であるが、実習における研究と開発により知的財産と思われる成果が生じた際の権利をどのようにするか、他分野の事例なども参考に検討しておく必要があると思われる。

5. （課題） 実習体制に関する企業（業界）連携のシステム化

（対策） 現在行われている個々の動物病院との連携は、継続すると考えられるが、就職希望先として選定していたインターン実習のための動物病院選定とは異なり、学習の成果を生み出す実習先として動物病院に依頼するようになる。条件や環境の異なる各動物病院において、学生が均一な内容・レベルで実習を受けることができるようにするためには、動物病院の指導者・スタッフも成長できるよう研鑽することが望まれる。

上記を鑑み、既に展開している公益社団法人千葉県獣医師会と専修学校との連携システムや、本事業で実証した公益社団法人東京都獣医師会と専修学校との連携システムをモデルケースとして、動物病院が所属する各都道府県・政令指定都市の獣医師会、及び動物病院・獣医師関連の団体や組織などと専修学校との組織的な連携システムを構築し普及できるように努めたい。

6. （課題） 学生全員が実習に臨む際の指導

（対策） 実証において各校教員から「事業で実証した事前教育・事後教育は少数の学生であったため、十分な指導が可能であったが、全学生となると時間が不足することが予測される」という感想があった。そのため、一つの案として動物看護総合実習の時間数90～180時間を全て動物病院で行う実習に充てるのではなく、コアカリキュラムの授業時間内に組み込む、もしくは他教科と連携して事前学習、及び事後学習を行うことを提案する。

3. 事業の実施体制、及びスケジュール

3-1. 構成員・構成機関・実施体制

（1） 構成機関（教育機関）

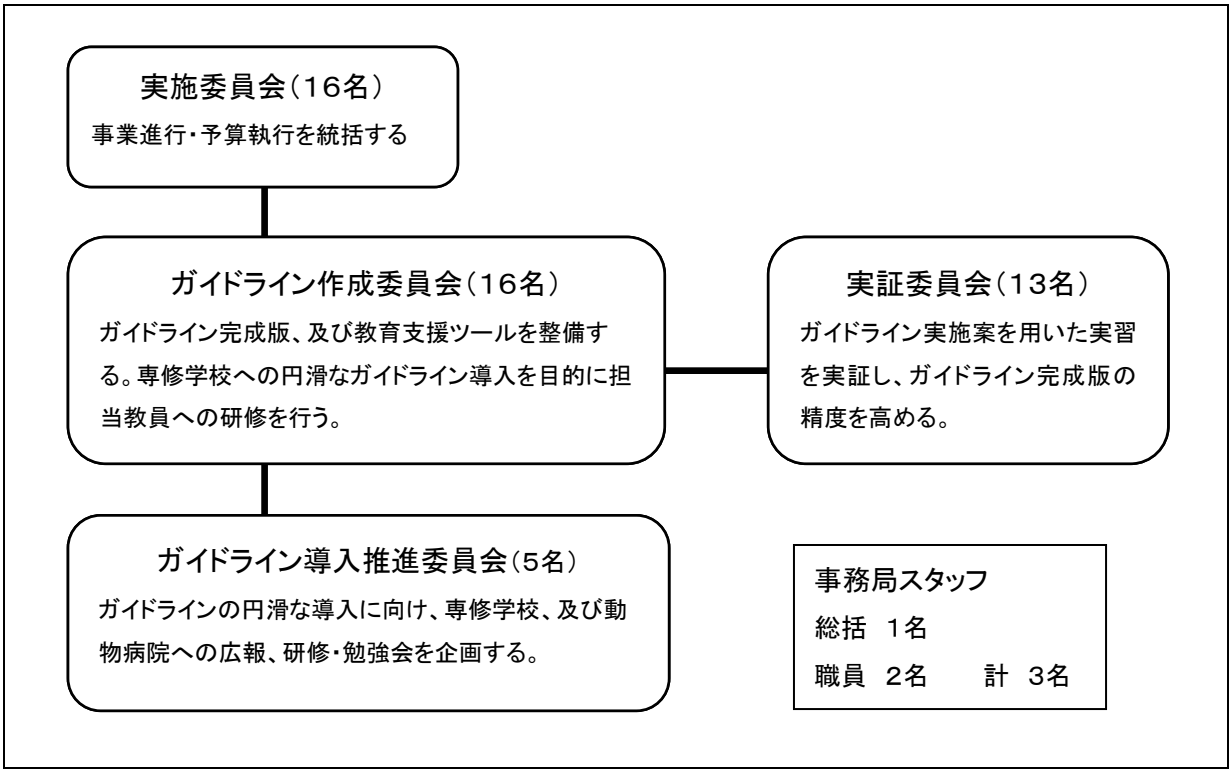
構成機関の名称		役割等	都道府県
1	国際動物専門学校	実施/ガイドライン／実証	東京都
2	宮崎ペットワールド専門学校	実施/ガイドライン／実証	宮崎県
3	国際ペットワールド専門学校	ガイドライン作成委員会／実証	新潟県
4	中央動物専門学校	ガイドライン作成委員会／実証	東京都
5	YIC京都ペット総合専門学校	ガイドライン作成委員会	京都府
6	学校法人 YIC 学院	実施委員会	山口県
7	愛犬美容看護専門学校	ガイドライン作成委員会／実証	北海道
8	学校法人ヤマザキ学園	ガイドライン作成委員会	東京都
9	専門学校ちば愛犬動物フラワー学園	ガイドライン作成委員会／実証	千葉県
10	大阪ペピイ動物看護専門学校	ガイドライン作成委員会／実証	大阪府
11	穴吹動物専門学校	ガイドライン作成委員会／実証	広島県
12	河原アイペットワールド専門学校	ガイドライン作成委員会／実証	愛媛県

（2） 構成機関（産業界、その他の機関）

構成機関の名称		役割等	都道府県
1	一般社団法人　全国動物教育協会	事業責任者	東京都
2	公益社団法人　日本獣医師会	事業推進	東京都
3	一般財団法人　動物看護師統一認定機構	実施・事業推進	愛知県
4	一般社団法人　日本動物看護職協会	事業推進	青森県
5	日本動物看護学会	事業推進	東京都
6	一般社団法人　日本小動物獣医師会	事業推進	香川県
7	公益社団法人　日本動物病院協会	事業推進	愛知県
8	公益社団法人　大阪市獣医師会	事業推進	大阪府
9	一般社団法人　日本動物保健看護系大学協会	事業推進	東京都
10	一般社団法人　日本動物病院マネージャー協会	事業推進	群馬県
11	公益社団法人　東京都獣医師会	事業推進	東京都

12	公益社団法人　京都市獣医師会	事業推進	京都府
13	公益社団法人　千葉県獣医師会	事業推進	千葉県
14	公益社団法人　埼玉県獣医師会	事業推進	埼玉県

（3） 事業の実施体制



3-2. 事業の推進体制

○ 実施委員会／事業を実施する上で設置した会議

会議名 ①	実施委員会		
目的・役割	事業方針、予算執行等に関する重要事項の意思決定、事業全体の管理監督		
検討の 具体的内容	本事業は実施委員会の下に設置する3つの委員会を総括し事業進行の統括をする役割を有する。実施委員会は動物医療界の主だった諸団体および動物看護師を養成する大学協会が参画し、動物病院実習ガイドラインの最適化を目指し完成版を作成する。		
委員数	16人	開催頻度	3回

（1） 実施委員会の構成員（委員）

氏　名		所属・職名	役割等	都道府県
1	下薗　惠子	一般社団法人 全国動物教育協会 会長	総括・事業推進	東京都
2	酒井　健夫	日本大学　名誉教授	事業推進・評価助言	東京都
3	原　大二郎	一般財団法人 動物看護師統一認定機構理事	事業推進・評価助言	愛知県
4	長崎　淳一	一般社団法人 日本小動物獣医師会 理事	評価助言	香川県
5	桜井　富士朗	日本動物看護学会 理事長	評価助言	東京都
6	小西　恭一	あぶの動物病院　院長	事業推進	大阪府
7	横田　淳子	一般社団法人 日本動物看護職協会 会長	評価助言	青森県
8	岡村　慎一	学校法人YIC学園　理事・統括本部長	評価助言	山口県
9	坂元　祥彦	宮崎ペットワールド専門学校 校長	事業推進・作成	宮崎県
10	市川 陽一朗	公益社団法人　千葉県獣医師会　会長	評価助言	千葉県
11	森　尚志	公益社団法人　京都市獣医師会　会長	評価助言	京都府
12	吉内　龍策	公益社団法人　大阪市獣医師会　会長	事業推進	大阪府
13	鴻巣　泰	公益社団法人　埼玉県獣医師会	事業推進	埼玉県
14	左向　敏紀	一般社団法人　日本動物保健看護系大学協会 会長	事業推進	東京都
15	上野　弘道	公益社団法人 東京都獣医師会 業務執行理事	事業推進	東京都
16	小澤　琢爾	公益社団法人 日本動物病院協会　事務局長	評価助言	東京都

○ ガイドライン作成委員会／事業を実施する上で設置した会議

会議名 ②	ガイドライン作成委員会		
目的・役割	ガイドライン作成、及び教育支援ツール、関連帳票類の整備		
検討の 具体的内容	動物病院実習において学習の成果が得られ、且つ動物病院にもメリットのある動物病院実習を行えるガイドライン作成となるように、2018年度事業での調査、実証をもとに、完成版の作成を目指す。あわせて、そのガイドラインの運用に必要となる教育支援ツール、帳票類を整備する。各専修学校でこのガイドラインが円滑に導入、成果が出せるよう、教員向けの研修を実施する。		
委員数	16人	開催頻度	4回

(2)ガイドライン作成委員会　構成員(委員)

氏　名		所属・職名	役割等	都道府県
1	下薗　惠子	一般社団法人全国動物教育協会 会長	作成	東京都
2	坂元　祥彦	宮崎ペットワールド専門学校 校長	リーダー	宮崎県
3	坂本　敏	中央動物専門学校 校長	作成	東京都
4	横田　淳子	一般社団法人 日本動物看護職協会 会長	評価助言	青森県
5	大久保文葉	一般社団法人 日本動物病院マネージャー協会 会長	評価助言	群馬県
6	石岡　克巳	一般財団法人　動物看護師統一認定機構 カリキュラム検討小委員会　委員長	評価助言	東京都
7	杉山　征人	YIC 京都ペット総合専門学校　校長	作成・実証	京都府
8	井上　留美	ヤマザキ動物専門学校　副校長	作成	東京都
9	青木　理子	大阪ペピイ動物看護専門学校　副校長	作成	大阪府
10	田上　真紀	穴吹動物専門学校　教員	作成	広島県
11	川邊　大介	河原アイペットワールド専門学校　事務長	作成	愛媛県
12	中川　佳代子	愛犬美容看護専門学校　事務長	作成	北海道
13	千葉　山	専門学校ちば愛犬動物フラワー学園　副校長	作成・実証	千葉県
14	荒井　英之	国際ペットワールド専門学校　副校長	作成	新潟県
15	今西　孝一	国際動物専門学校　教務・学生部　部長	作成・実証	東京都
16	山下　眞理子	国際動物専門学校　教育担当顧問	作成	東京都

○ ガイドライン導入推進委員会／事業を実施する上で設置した会議

会議名 ③	ガイドライン導入推進委員会		
目的・役割	ガイドラインの導入促進、広報作業		
検討の 具体的内容	特に学生の実習を受け入れる動物病院に対し、当ガイドラインの目的、運用についての理解を深めていただくための推進作業を行う。獣医師会、獣医師関連団体への説明を行い、受け入れ動物病院の指導方法、評価方法等についての説明会、研修も行う。		
委員数	5人	開催頻度	6回

（3） ガイドライン導入推進委員会の構成員（委員）

	氏　名	所属・職名	役割等	都道府県
1	下薗　惠子	一般社団法人全国動物教育協会 会長	作成	東京都
2	坂元　祥彦	宮崎ペットワールド専門学校 校長	リーダー	宮崎県
3	横田　淳子	一般社団法人　日本動物看護職協会 会長	評価助言	青森県
4	青木　理子	大阪ペピイ動物看護専門学校　副校長	作成	大阪府
5	山下　眞理子	国際動物専門学校　教育担当顧問	作成	東京都

○ 実証委員会／事業を実施する上で設置した会議

会議名 ④	実証委員会		
目的・役割	ガイドライン実施案の実証と検証を行う		
検討の 具体的内容	動物病院実習ガイドラインの理解型、体験型、実務型について、可能な限り専修学校において実証を行い、その結果の検証か、よりガイドラインの精度を高め完成版とする。あわせて実習に必要な教育支援ツールについても実証の結果から修正を行い、使いやすく学習効果の得られるツールにする。		
委員数	13人	開催頻度	3回

（4） 実証委員会の構成員（委員）

	氏　名	所属・職名	役割等	都道府県
1	下薗　惠子	一般社団法人全国動物教育協会 会長	リーダー	東京都
2	坂元　祥彦	宮崎ペットワールド専門学校 校長	実証評価	宮崎県

3	楠田　晃	宮崎ペットワールド専門学校 教員	実証評価	宮崎県
4	青木　理子	大阪ペピイ動物看護専門学校　副校長	実証評価	大阪府
5	若山　明子	愛犬美容看護専門学校　教員	実証評価	北海道
6	青柳　紘枝	専門学校ちば愛犬動物フラワー学園 動物看護チームリーダー	実証評価	千葉県
7	西依　ひとみ	国際動物専門学校　教員	実証評価	東京都
8	佐藤　絵里砂	大宮国際動物専門学校　教員	実証評価	埼玉県
9	大塚　謙伍	中央動物専門学校　教員	実証評価	東京都
10	田上　真紀	穴吹動物専門学校　教員	実証評価	広島県
11	沓名　竜佑	河原アイペットワールド専門学校　教員	実証評価	愛媛県
12	遠藤　純一	国際ペットワールド専門学校　教員	実証評価	新潟県
13	山下　眞理子	国際動物専門学校　教育担当顧問	実証評価	東京都

3-3. 事業実施スケジュール

○ 2019年度事業は以下のスケジュールで実施した。

2019年	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
2019年度事業 →	・事業スケジュールの確認 ・ガイドライン案で実証実施 ・教育支援ツールの整備			・ガイドライン（暫定版）の提出 ・課題点の確認 ・関連団体、組織への情報提供			・ガイドライン最終版の完成 ・事業の検証 ・成果報告書の作成	
実施委員会 16名／3回開催		① 8月26日				② 12月23日		③ 2月18日 成果報告会
ガイドライン作成委員会 16名／4回開催		① 8月2日		② 10月28日 ② 10月29日	③ 11月18日		④ 1月10日 ④1月16日	
ガイドライン導入推進委員会 5名／6回開催			① 9月6日	② 10月3日	③ 11月11日	④ 12月23日	⑤1月22日	⑥ 2月17日
ガイドライン実習研修会 2回開催		① 8月22日		② 10月27日				
実証委員会 13名／3回開催		① 8月22日		② 10月27日			③ 1月19日	
実習の実証実施～検証		研修会実施後から各校で実証を実施～検証を行う／10校						

4. 実施委員会　活動報告

4-1. 実施委員会の目的、及び活動内容

動物病院実習ガイドライン作成事業は、本年が3年目、最終年度となる。昨年の2019年6月、愛玩動物看護師法が成立し、動物看護師の公的資格化が現実となった。それにより、教育・学習効果を目的にした動物病院実習の重要性は一層高まったと考えられる。

本事業では実施委員会、ガイドライン作成委員会、ガイドライン導入推進委員会、実証委員会の4つの委員会を設置し、ガイドラインの作成に取り組んだ。実施委員会は、現在日本の小動物医療に携わる獣医師、教育者、獣医師会等の団体関係者が委員として参画、当事業全体を統括、推進する役割を担った。

日本の小動物を取り巻く社会環境、動物業界、動物医療業界、動物看護師等の動向を把握しつつ、動物病院実習の精度をより高めるために、実習前、実習後の教育も含め、動物病院実習ガイドラインの作成を目的に事業を推進した。

実施委員会での検討課題は、ガイドラインの内容や構成、運用方法、学生の評価、就職～採用、指導者育成、専修学校や主な実習先である動物病院との連携など広い範囲に及び、意見やアドバイス、提案をいただいた。

4-2. 実施委員会の実施記録

会議名	第1回　実施委員会
開催日時	2019年8月26日（月）　13:30～15:30 （2.0h）
場所	AP東京八重洲通り12階Cルーム／東京都中央区京橋１丁目10番7号　KPP八重洲ビル
出席者	① 委員 下薗　惠子、酒井　健夫、原大二郎、長崎　淳一、桜井富士朗、小西　恭一、横田　淳子、 岡村　慎一、市川 陽一朗、上野　弘道、坂元　祥彦、森　尚志、吉内　龍策、鴻巣　泰、 左向　敏紀、小澤　琢爾 ② 事務局 會田　早秋 ③ オブザーバー 西澤　亮治 ○ 出席者　委員16名、事務局1名　オブザーバー1 名　合計18名

議題等	〈会議の目的・内容〉 下薗委員の開会の挨拶の後、各委員の紹介と当委員会の目的、事業スケジュール、及び事業概要、事業計画書、3段階に階層化されたガイドライン実習案の運用について詳細な説明を行った。その後、この事業で作成する動物病院実習ガイドラインの内容や構成、教育支援ツールについてだけでなく、現在の動物看護師の採用～雇用の状況、受け入れ側としての要望、小動物医療を取り巻く環境の変化、2019年6月に成立した愛玩動物看護師法等についても、活発な質問、意見交換が行われた。実施委員会での協議、決定事項や委員からの提案、助言をもとに、動物病院実習ガイドラインの内容を集約、完成に向けた工程を確認した。 〈会議の次第〉 1. 開会挨拶 2. 実施委員紹介 3. 事業内容の説明 （1）事業主旨、目的の確認 ・本年度事業計画の説明 （2）事業の進行状況 ・ガイドライン導入促進委員会より「評価指標」 ・ガイドライン作成委員会より「階層化名称変更 ・実証委員会より 「本年度実証」「教員及び動物病院実習担当研修会」 4. 事業内容に関する実施委員からのご質問と意見交換 5. まとめ 次回実施委員会開催日程の検討、今後の日程確認 6. 閉会の辞 〈会議資料〉 ・2019年度 事業計画書 ・動物看護総合実習 目的・目標一覧表 ・動物病院総合実習 学生成果指標・教科担当者評価表【理解型】 ・動物病院総合実習 学生成果指標・教科担当者評価表【体験型】 ・学習成果指標（動物分野 － 認定動物看護師職種） ・全体スケジュール表

○ 2019年8月26日（日） 第１回 実施委員会

会議名	第2回　実施委員会
開催日時	2019年12月23日（月）　13：30～15：30　（2.0h）
場所	AP東京八重洲通り10階Y1ルーム／東京都中央区京橋1丁目10番7号KPP八重洲ビル
出席者	① 委員 下薗　惠子、原大二郎、長崎　淳一、桜井富士朗、小西　恭一、横田　淳子、市川 陽一朗、上野　弘道、坂元　祥彦、森　尚志、吉内　龍策、鴻巣　泰、左向　敏紀、小澤　琢爾 ○　欠席　酒井　健夫、岡村　慎一 ② 事務局 會田　早秋 ③ オブザーバー 西澤　亮治 ○　出席者　委員14名、事務局1名　オブザーバー1 名　合計16名
議題等	〈会議の目的・内容〉 最終の校正用にガイドラインと教育支援ツールの暫定版を準備し、内容や文章、表現、用語等について意見をお聞きした。同時に当ガイドラインを利用した専修学校、学生、主な実習先である動物病院との連携や想定している実習の運用案について説明を行い、意見をお聞きした。ガイドラインの完成に向け最終的な課題を抽出し、今後の円滑な運用、導入の拡大に向けた獣医師会、並びに開業獣医師・動物病院への協力・支援を依頼した。 〈会議の次第〉 1. 開会挨拶 2. ガイドライン（暫定版）、支援ツールの内容説明 3. 内容について、実施委員からの質問と意見交換 4. 今後のスケジュール、日程確認 5. 閉会の辞 〈会議資料〉 ・動物病院実習ガイドライン（暫定版） ・教育支援ツール集（暫定版） ・全体スケジュール表

○　2019年12月23日（月）　第2回　実施委員会

会議名	第3回　実施委員会
開催日時	2020年2月18日（火）　12：30～14：00　（1.5h）
場所	AP東京八重洲通り　11階Oルーム／東京都中央区京橋1丁目10番7号KPP八重洲ビル
出席者	①　委員 下薗　惠子、酒井　健夫、原大二郎、長崎　淳一、小西　恭一、横田　淳子、市川　陽一朗、上野　弘道、坂元　祥彦、岡村　慎一、吉内　龍策、鴻巣　泰、左向　敏紀、小澤　琢爾， 山下眞理子（ガイドライン導入推進委員会委員、ガイドライン作成委員会委員） ○　欠席　森　尚志、桜井富士朗 ②　事務局 會田　早秋 ③　オブザーバー 西澤　亮治 ○　出席者　委員15名、事務局1名　オブザーバー1名　合計17名
議題等	〈会議の目的／次第・内容〉 今年度事業で作成に取り組んだ実習ガイドラインが完成。特に重要なリスクマネジメントや今後の課題、対策について各委員から助言、提案をいただき、意見交換を行った。また、獣医師会や獣医師関連団体との連携について、今後一層の協力を依頼した。 〈会議の次第〉 1．開会挨拶 2．ガイドライン、支援ツールの内容説明 3．リスクマネジメント、ガイドライン活用の課題と対策についての協議 4．委員からのご質問と意見交換 5．閉会の辞 〈会議資料〉 ・動物病院実習ガイドライン（完成版の印刷物）

○　2020年2月18（火）　第3回　実施委員会

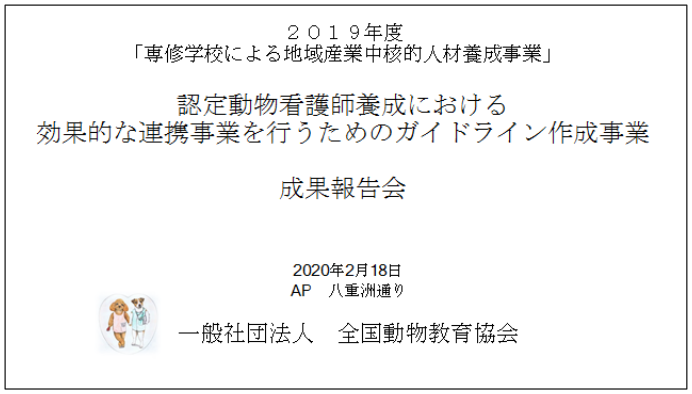
4-3. 成果報告会

会議名	成果報告会
開催日時	2020年2月18日（火） 14:15～17:30 （3h15min）
場所	AP東京八重洲通り 11階 L＋M ルーム 東京都中央区京橋1丁目10番7号 KPP八重洲ビル
出席者	① 事業実施委員 14名 ② 来賓 文部科学省／1名 環境省／2名 ③ 獣医師会 1団体／1名 ④ 協会・機構 3団体／4名 ⑤ 大学 2大学／2名 ⑥ 専修学校 38校／63名 ⑦ 出版社 3社／6名 ⑧ その他 3団体／3名 合計 96名
議題等	〈会議の目的／次第・内容〉 平成29年より取り組んだ、ガイドライン作成事業の成果として、今回、実習ガイドラインが完成した。その内容を広く紹介し、各専修学校での積極的な導入、学習を目的にした実習の字実施を促進するために、成果報告会を開催した。

○ 2020年2月18日（火） 成果報告会

＜タイムスケジュールと次第＞

成果報告会　式次第			司　会	時　間
1.　開　会			坂本　敏	14:15～
2.　委託事業代表　謝辞	受託代表	下薗　恵子		
3.　来賓祝辞	文部科学省総合教育政策局	宮本　二郎　様		
	環境省自然環境局総務課	小高　大輔　様		
4.　事業成果　発表				14:30～
・ガイドラインの要点、具体的内容、構築方法		坂元　祥彦		
・教育支援ツール紹介		山下眞理子		
・実証における成果紹介		青木　理子		
・本ガイドライン活用の課題とその対策		下薗　恵子		
（国試カリキュラムにおける活用を含む）				
休　　憩				
質疑応答			坂元　祥彦	16:20～
5.　総　評	実施委員会　委員代表	酒井　健夫　先生		17:20～
6.　閉　会				17:30



5. ガイドライン作成委員会 活動報告

5-1. ガイドライン作成委員会の目的、及び活動内容

ガイドライン作成委員会は、実際に動物看護師養成教育に携わる専修学校の教育者、実務者、及び獣医師・動物看護師が加盟する団体関係者で構成した。ガイドラインの内容、構成、用語、表現などの詳細について検討し、実習先である動物病院と連携したガイドラインの運用方法や解決すべき課題を抽出、導入に向けたガイドラインの構成、内容について協議し整備を行う。

5-2. 実施委員会の実施記録

会議名	第1回 ガイドライン作成委員会
開催日時	2019年8月2日（金） 8:30～10:30 （2.0h）
場所	AP東京八重洲通り11階Mルーム／東京都中央区京橋１丁目10番7号 KPP八重洲ビル
出席者	① 委員 下薗 惠子、坂元 祥彦、坂本 敏、横田 淳子、石岡 克己、井上 留美、青木 理子、 田上 真紀、川邉 大介、中川佳代子、千葉 山、荒井 英之、今西 孝一、山下眞理子 ○ 欠席 杉山 征人、大久保文葉 ② 事務局 會田 早秋 ③ オブザーバー 西澤 亮治 ○ 出席者 委員14名、事務局1名 オブザーバー1 名 合計16名

○ 2019年8月2日（日） 第１回 ガイドライン作成委員会

議題等	〈会議の目的・・内容〉 下薗委員の開会の挨拶の後、各委員の紹介と当委員会の目的、事業スケジュール、及び事業概要、事業計画書、3段階に階層化されたガイドライン実習案の運用について詳細な説明を行った。その後、この事業で作成する動物病院実習ガイドラインの内容や構成、教育支援ツールについてだけでなく、現在の動物看護師の採用～雇用の状況、受け入れ側としての要望、小動物医療を取り巻く環境の変化、2019年6月に成立した愛玩動物看護師法等についても、活発な質問、意見交換が行われた。実施委員会での協議、決定事項や委員からの提案、助言をもとに、動物病院実習ガイドラインの内容を集約、完成に向けた工程を確認した。 〈会議の次第〉 1. 開会挨拶 2. 愛玩動物看護師法に関する説明 3. 教育支援ツールの内容の確認 4. 教員を対象とした研修会開催について 5. その他意見交換 6. 閉会の辞 〈会議資料〉 ・愛玩動物看護師法に関するQ＆A集 ・動物看護総合実習　目的・目標一覧表 ・自己評価シート　動物看護総合実習（体験型実習） ・自己評価シート　動物看護総合実習（体験型実習） ・動物看護総合実習「体験型」科目評価表 ・動物看護総合実習　ポートフォリオ、ゴールシート ・動物看護総合実習手引き（学生） ・全体スケジュール表

会議名	第2回　ガイドライン作成委員会　①　　※出席者の関係で28日と29日の2回開催
開催日時	2019年10月28日（月）　13:30～15:30（2.0h）
場所	AP東京八重洲通り11階Mルーム／東京都中央区京橋１丁目10番7号　KPP八重洲ビル
出席者	① 委員 下薗　惠子、横田　淳子、石岡　克己、田上　真紀、川邉　大介、中川佳代子、大久保文葉、山下眞理子 ○　欠席　青木　理子 ② 事務局 會田　早秋

	③ オブザーバー 西澤　亮治 ○ 出席者　委員8名、事務局1名　オブザーバー1 名　合計10名

会議名	第2回　ガイドライン作成委員会　②　※出席者の関係で28日と29日の2回開催
開催日時	2019年10月29日（火）　13：30～15：30（2.0h）
場所	AP東京八重洲通り11階Jルーム／東京都中央区京橋１丁目10番7号　KPP八重洲ビル
出席者	① 委員 下薗　惠子、坂元　祥彦、坂本　敏、杉山　征人、井上　留美、千葉　山、荒井　英之、今西　孝一 ② 事務局 會田　早秋 ③ オブザーバー 西澤　亮治 ○ 出席者　委員8名、事務局1名　オブザーバー1 名　合計10名

議題等	〈会議の目的・内容〉 各委員での協議を踏まえ、株式会社三菱総研より指示を受けたガイドラインの作成フォーマットに則して、各委員で項目ごとに担当を決め、具体的な原稿の作成、チェック、修正作業を行う。より多くの専修学校で活用できるよう、汎用性を有したガイドラインの作成作業を進める。 〈会議の次第〉 1. 開会挨拶 2. 進捗状況の報告と課題点の共有 3. 担当別にガイドラインの作成作業 4. 閉会 〈会議資料〉 ・株式会社三菱総合研究所「専修学校版デュアル教育」分野別ガイドライン作成要領 ・動物病院実習フロー ・2019年実証試行状況（2019年10月28日時点） ・ガイドライン作成分担表

○ ガイドラインの項目と委員の分担

ガイドライン作成　分担表							
項目no.		作成要領より必要項目		作成済 ・未	担当者		
1	1.1	動物看護分野の概況	事業計画書より	既有			
		専門学校の現状（動物看護分野）	事業計画書より	既有			
		専門学校が抱える課題（動物看護分野）	事業計画書より	既有			
	1.2	ガイドラインの趣意・目的	事業計画書より	既有			
	1.3	ガイドラインの適応範囲	動物看護総合実習（180時間の内90時間）	既有			
2	2.1	動物看護総合実習　目的・目標	表	既有			
		教育目標（育成人材像）	評価指標の「優」「良」評価	既有			
	2.1.1	教育の主体	動物看護師養成専門学校	既有			
		学生・受講者	動物看護師を目指す学生、履修歴チェック	既有			
	2.2.2	従来との違い	就職活動　⇒　学習の成果	既有			
	2.2.3	各プレーヤーの役割とメリット			坂元	杉山	井上
	2.3	標準的なカリキュラムモデル	カリキュラムツリー、教科相関図	既有	山下	石岡	
3	3.1	デュアル教育フロー		再確認	坂元	杉山	井上
	3.2（1）	目的の明確化	2.1	既有			
	3.2（2）	教育目標および教育内容・方法の明確化	2.1	既有			
	3.2（3）	役割分担			大久保	横田	
	3.2（4）	報酬	報酬を発生する場合の試算				
	3.2（5）	協定・契約の締結	協定書・誓約書	既有	川邊	千葉	荒井
	3.2（6）	リスクマネジメント	協定書・誓約書・手引きなど指導要領	追加？確認		今西	坂本
	3.3（1）	受入企業の開拓	ガイドライン実習説明書など	作成委員会	大久保	横田	
	3.3（2）	学生と企業のマッチング	選定の仕方（選定条件など）	作成委員会	大久保	横田	
	3.3（3）	受け入れ体制整備		作成委員会	大久保	横田	
	3.3（4）	企業内実習	企業内指導書	作成委員会	大久保	横田	
	3.3（5）	実習前・実習後教育	指導書（指導要領・ポートフォリオ・履修歴チェック）	作成委員会	青木	中川	田上
	3.3（6）	学生の評価	学生自身の評価：評価の付け方指導書		青木	中川	田上
	3.4（1）	プログラムの評価		推進導入委員会			
	3.4（2）	プログラムの改善方法		推進導入委員会			
4		教育支援ツール	教育支援ツールの利用目的・構成（内容）・利用方法				
5		その他留意事項					
6		【参考】本ガイドラインの作成プロセス		中間報告書より	西澤		

○ 2019年10月28日（月）
第2回 ガイドライン作成委員会 ①

○ 2019年10月29日（火）
第2回 ガイドライン作成委員会 ②

会議名	第3回 ガイドライン作成委員会
開催日時	2019年11月18日（月） 13:30～15:30（2.0h）
場所	AP東京八重洲通り10階Y1ルーム／東京都中央区京橋１丁目10番7号KPP八重洲ビル
出席者	① 委員 下薗 惠子、坂元 祥彦、坂本 敏、横田 淳子、石岡 克己、井上 留美、青木 理子、 田上 真紀、川邉 大介、中川佳代子、千葉 山、荒井 英之、今西 孝一、山下眞理子 ○ 欠席 杉山 征人、大久保文葉 ② 事務局 會田 早秋 ③ オブザーバー 西澤 亮治 ○ 出席者 委員14名、事務局1名 オブザーバー1 名 合計16名

議題等	〈会議の目的・内容〉 動物病院実習ガイドラインの作成作業も終盤となり、構成、内容、文章、表現、用語、図表などの確認とチェックを行った。あわせて教育支援ツールについても、その内容を点検し、事前学習、実習中、事後学習、それぞれの段階で、教育支援ツールの運用方法やタイミング、留意点などを確認した。より精度の高いガイドライン作成を目指すために、課題点や今後必要な作業についても確認し共有した。 〈会議の次第〉 1. 開会挨拶 2. 進捗状況の報告と課題点の共有 3. 担当グループに分かれてガイドラインの作成作業 4. 閉会 〈会議資料〉 ・ガイドライン（下書き） ・教育支援ツール一覧と作成担当表 ・委員会開催スケジュール表

○ 教育支援ツールの一覧と各委員の作成担当表

準備期間	実習前	実習中	実習後	番号	ツール名 確定名称	関連するプレーヤー 専門学校	学生	動物病院	管理者	担当
*					カリキュラムマップ	課程検討				山下・石岡
*					カリキュラムツリー	課程検討				
*					動物看護総合実習提案書 ※動物病院総合実習提案書	提案説明			動物病院・専門学校	坂本・川邊・千葉・荒井・今西
*					動物看護総合実習提案書（説明PP）					
	*				動物看護総合実習申込書 ※動物病院総合実習申込書	申込・依頼		検討	動物病院	
	*				動物看護総合実習承諾書			承諾	専門学校	
	*				動物看護総合実習協定書	協定		協定	動物病院・専門学校	
	*				動物看護総合実習誓約書		誓約		動物病院	
	*				個人表 ※自己身上書	指導	作成	確認	動物病院	
	*				履修歴チェックリスト		作成	確認	学生 or 動物病院	山下・石岡
	*				自己分析シート	指導	作成		学生	青木・井上
	*	*	*		ポートフォリオ	指導	作成	確認	学生	
		*			技術チェックリスト	指導	記録		学生	
	*				実習手引き ※実習心得	指導	理解		学生	中川・田上
	*				実習指導要領	指導			専門学校	
		*			受入先オリエンテーション資料(PP)		理解	説明	動物病院	横田・坂元・下薗
			*		自己評価シート		評価		専門学校	
			*		他社評価シート(受入先)（教員）	評価		評価	専門学校	
			*		動物看護総合実習プログラム評価・改善資料	評価		フィードバック	専門学校	

○ 2019年11月18日（月） 第3回 ガイドライン作成委員会

会議名	第4回 ガイドライン作成委員会 ① ※出席者の関係で10日と16日の2回開催
開催日時	2020年1月10日（金） 13：30～15：30（2.0h）
場所	AP東京八重洲通り11階Mルーム／東京都中央区京橋１丁目10番7号 KPP八重洲ビル
出席者	① 委員 下薗 惠子、酒井 健夫(実施委員会 委員)、坂本 敏、青木 理子、田上 真紀、 中川佳代子、山下眞理子、千葉 山、荒井 英之 ○ 欠席 石岡 克己 ② 事務局 會田 早秋 ③ オブザーバー 西澤 亮治 ○ 出席者 委員9名、事務局1名 オブザーバー1 名 合計11名

会議名	第4回 ガイドライン作成委員会 ② ※出席者の関係で10日と16日の2回開催
開催日時	2020年1月16日（木） 13：30～15：30（2.0h）
場所	AP東京八重洲通り11階Jルーム／東京都中央区京橋１丁目10番7号 KPP八重洲ビル
出席者	① 委員 下薗 惠子、坂元 祥彦、大久保文葉、杉山 征人、横田 淳子、井上 留美、今西 孝一、 川邉 大介、 ② 事務局 會田 早秋 ③ オブザーバー 西澤 亮治 ○ 出席者 委員8名、事務局1名 オブザーバー1 名 合計10名

議題等	〈会議の目的／次第・内容〉 2019年12月にガイドラインの最終確認を行うための暫定版を作成。それを元に、12月23日（月）に開催した第2回実施委員会で指摘された課題点、修正部分を確認。それを反映して、全体の整備を行った。特にリスクマネジメント、ハラスメント、今後の課題と対策、の部分についての協議、意見交換を行い、適切な文章、表現、用語を集約した。教育支援ツールも同様に最終の確認を行った。 ○　議事内容 〈会議の次第〉 1. 開会挨拶 2. 進捗状況の報告と課題点の共有 3. 担当グループに分かれてガイドラインの作成作業 4. 閉会 〈会議資料〉 ・ガイドライン（下書き） ・教育支援ツール一覧と作成担当表 ・委員会開催スケジュール表

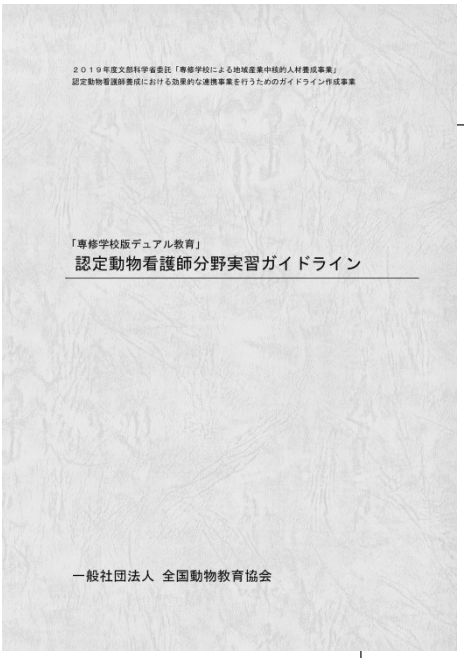
○　2020年1月10日（金）　第4回　ガイドライン作成委員会　①

○　2020年1月16日（木）　第4回　ガイドライン作成委員会　②

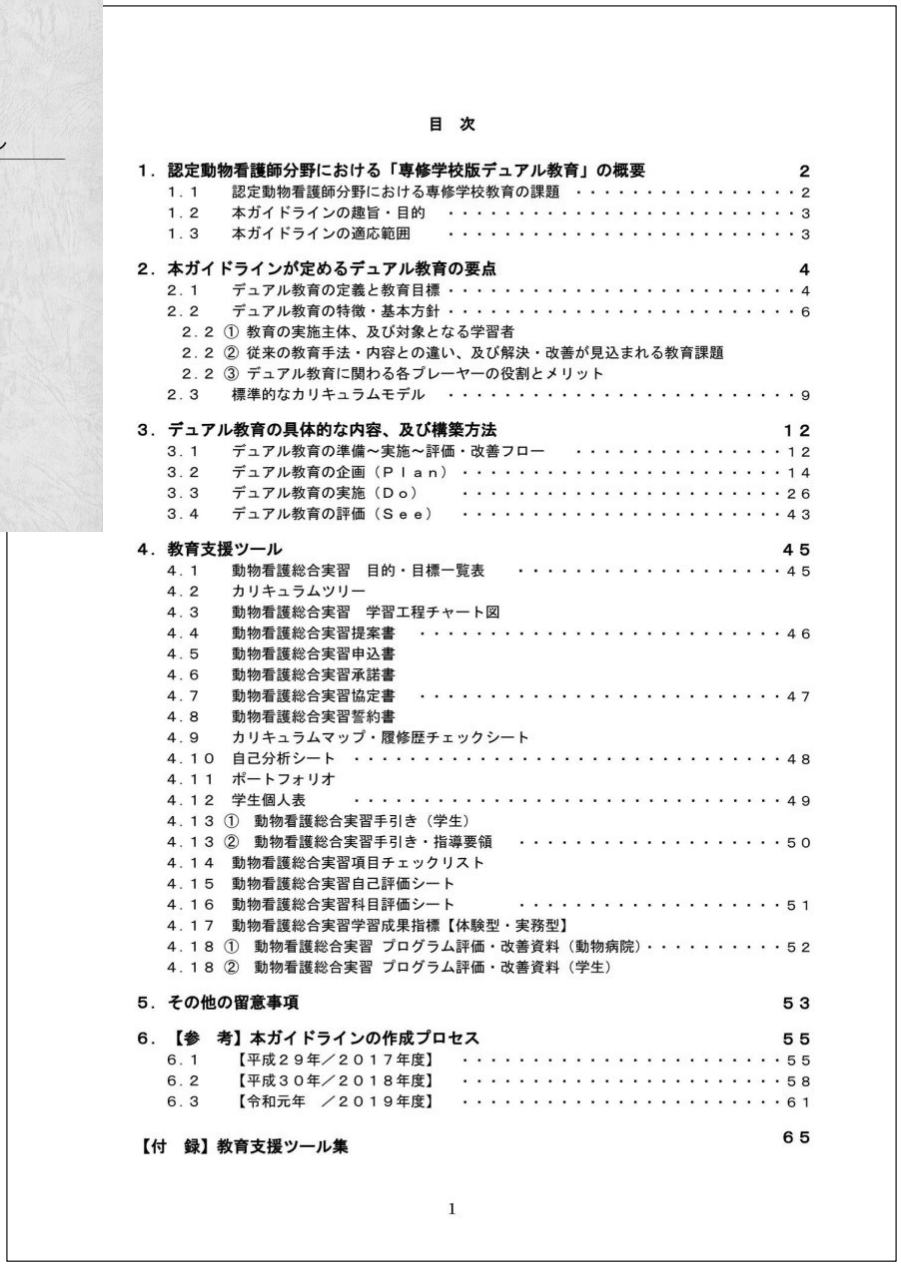
5-3. 作成物／ガイドライン・教育支援ツール

○　認定動物看護師分野実習ガイドライン

「認定動物看護師分野実習ガイドライン」として下記の項目で構成し１冊に纏めた。教育支援ツールも全て収めている。



● A4サイズ・114ページ



目　次

１．認定動物看護師分野における「専修学校版デュアル教育」の概要　2
１．１　認定動物看護師分野における専修学校教育の課題　2
１．２　本ガイドラインの趣旨・目的　3
１．３　本ガイドラインの適応範囲　3
２．本ガイドラインが定めるデュアル教育の要点　4
２．１　デュアル教育の定義と教育目標　4
２．２　デュアル教育の特徴・基本方針　6
２．２ ① 教育の実施主体、及び対象となる学習者
２．２ ② 従来の教育手法・内容との違い、及び解決・改善が見込まれる教育課題
２．２ ③ デュアル教育に関わる各プレーヤーの役割とメリット
２．３　標準的なカリキュラムモデル　9
３．デュアル教育の具体的な内容、及び構築方法　１２
３．１　デュアル教育の準備～実施～評価・改善フロー　１２
３．２　デュアル教育の企画（Ｐｌａｎ）　１４
３．３　デュアル教育の実施（Ｄｏ）　２６
３．４　デュアル教育の評価（Ｓｅｅ）　４３
４．教育支援ツール　４５
４．１　動物看護総合実習　目的・目標一覧表　４５
４．２　カリキュラムツリー
４．３　動物看護総合実習　学習工程チャート図
４．４　動物看護総合実習提案書　４６
４．５　動物看護総合実習申込書
４．６　動物看護総合実習承諾書
４．７　動物看護総合実習協定書　４７
４．８　動物看護総合実習誓約書
４．９　カリキュラムマップ・履修歴チェックシート
４．１０　自己分析シート　４８
４．１１　ポートフォリオ
４．１２　学生個人表　４９
４．１３ ①　動物看護総合実習手引き（学生）
４．１３ ②　動物看護総合実習手引き・指導要領　５０
４．１４　動物看護総合実習項目チェックリスト
４．１５　動物看護総合実習自己評価シート
４．１６　動物看護総合実習科目評価シート　５１
４．１７　動物看護総合実習学習成果指標【体験型・実務型】
４．１８ ①　動物看護総合実習 プログラム評価・改善資料（動物病院）　５２
４．１８ ②　動物看護総合実習 プログラム評価・改善資料（学生）
５．その他の留意事項　５３
６．【参　考】本ガイドラインの作成プロセス　５５
６．１　【平成２９年／２０１７年度】　５５
６．２　【平成３０年／２０１８年度】　５８
６．３　【令和元年　／２０１９年度】　６１
【付　録】教育支援ツール集　６５

1

○ 教育支援ツールの使用時期と関連するプレーヤー

時 期	使用ツール		関連するプレーヤー			管理者
			専修学校	学生	動物病院	
準備期間	4.1	動物看護総合実習 目標・目的一覧表	プラン作成		理解	専修学校
	4.2	カリキュラムツリー	課程検討	活用	理解	専修学校
	4.3	動物看護総合実習　学習工程チャート図	プラン作成		理解	専修学校
	4.4	動物看護総合実習提案書	依頼・開拓		検討	動物病院・専修学校
	4.5	動物看護総合実習申込書	作成・依頼		承諾	動物病院
	4.16	動物看護総合実習科目評価シート	作成・説明		理解	動物病院・専修学校
実習前	4.4	動物看護総合実習提案書	依頼・開拓		検討	動物病院・専修学校
	4.6	動物看護総合実習承諾書	締結		承諾	動物病院・専修学校
	4.7	動物看護総合実習協定書	締結		確認	動物病院・専修学校
	4.13 ①	動物看護総合実習実習手引き(学生)		理解		学生・専修学校
	4.13 ②	動物看護総合実習実習手引き・指導要領	指導			学生・専修学校
	4.16	動物看護総合実習科目評価シート	説明		確認・理解	専修学校
	4.1	動物看護総合実習 目標・目的一覧表	学生指導	理解		専修学校
	4.2	カリキュラムツリー	学生指導	理解		専修学校
	4.3	動物看護総合実習　学習工程チャート図	学生指導	理解		専修学校
	4.8	動物看護総合実習誓約書	説明	作成	受理	動物病院
	4.9	カリキュラムマップ・履修歴チェックシート	説明	履修歴	履修歴確認	専修学校
	4.10	自己分析シート	説明	作成		学生
	4.11	ポートフォリオ	学生指導	作成		学生
	4.12	学生個人表	説明	作成	準備	学生
	4.13 ①	動物看護総合実習実習手引き(学生)		理解		学生・専修学校
	4.13 ②	動物看護総合実習実習手引き・指導要領	指導			学生・専修学校
	4.15	動物看護総合実習自己評価シート	説明	理解		学生
	4.16	動物看護総合実習科目評価シート	説明・依頼		理解	動物病院・専修学校
	4.17	動物看護総合実習学習成果指標【体験型・実務型】	説明		理解	動物病院・専修学校
実習中	4.11	ポートフォリオ		記録	確認	
	4.13 ①	動物看護総合実習実習手引き(学生)		活用		学生
	4.14	動物看護総合実習項目チェックリスト		記録	確認	学生
	4.16	動物看護総合実習科目評価シート			評価	動物病院・専修学校
	4.17	動物看護総合実習学習成果指標【体験型・実務型】			理解	
実習後	4.11	ポートフォリオ		記録	確認	学生
	4.15	動物看護総合実習自己評価シート		自己評価		学生
	4.16	動物看護総合実習科目評価シート	回収		評価	専修学校
	4.17	動物看護総合実習学習成果指標			評価	専修学校
事業終了後	4.18 ①	動物看護総合実習プログラム評価・改善資料（動物病院）	課題	課題検出	改善提案	動物病院・専修学校
	4.18 ②	動物看護総合実習プログラム評価・改善資料（学生）				学生・専修学校

○ 教育支援ツール　利用目的／構成・内容／利用方法

4．1 動物看護総合実習　目標・目的一覧表

○ 利用目的

動物看護総合実習の教育課程における目標・目的を、学生・実習指導者・教職員、及び実習先の受入企業（動物病院）に理解を得ることで動物病院実習での学習成果が必要であることを認識する。

○ 構成・内容

「理解型実習」「体験型実習」「実務型実習」それぞれの、実習年次・期間（日数）・時間数・目的・目標を設定する。

○ 利用方法

実習の準備中、実習前、実習中、実習後、それぞれの段階で実習に関わる対象者（教職員：実習計画時、実習指導者：実習依頼時、学生：実習前教育時）に対して説明を行う。

4．2 カリキュラムツリー

○ 利用目的

「動物看護総合実習」の実施時期と、全学年で修得する授業科目の教育課程編成、及び学修成果を達成するための関連性を示すものとして教育課程を体系化し、学生が学びの目標や全体像を理解できるようにする。

○ 構成・内容

コアカリキュラムの教育課程を一覧できるようにし、コアカリキュラム全教科の履修時期と教科間の関係を明示する。

○ 利用方法

年度開始時（教育課程説明時）、又は実習前教育時の履修科目チェック時などに、カリキュラムツリーを基に教育課程の全体像を把握させ、履修科目と動物看護総合実習の関連性を認識させる。

4．3 動物看護総合実習　学習工程チャート図

○ 利用目的

動物看護総合実習の学習工程を理解する。

各実習段階で活用するツールを理解する。

○ 構成・内容

実習前の教育から実習中、実習後教育までの流れと学生の学習工程、各段階で使用する教育支援ツールを記載（実習前教育～実習オリエンテーション～動物病院実習～実習後教育）する。

○ 利用方法

動物病院に対する実習提案時の説明時に使用。

実習前教育の段階で、教育課程を理解させる際に使用する。

4．4 動物看護総合実習提案書

○ 利用目的

実習先（動物病院）に対して、実習の目的と役割分担の理解を図る。

○ 構成・内容

デュアル教育の目的、実習の目的・目標など全体像を説明する（実習目的・目標一覧表、学習工程チャート図、実習評価等）。
動物病院における院内オリエンテーション（参考資料）。
○ 利用方法
実習先の開拓時や、実習受入先動物病院への実習内容を説明する際に活用する。

4．5 動物看護総合実習申込書

○ 利用目的
実習実施候補先に対して、実習の可否の確認、及び実習先における実習内容を確認する。
○ 構成・内容
実習の可否の確認、及び実習先における実習内容を確認する。
受け入れ人数、実習期間、実習時間を提示する。
○ 利用方法
実習前までに学生の実習受入れを希望する動物病院に提出する。
事前に作成した「動物看護総合実習申込書」を実習先へ送付する。
2部作成（コピー可）し、原本を実習先へ提出。控えを学校で保管する。

4．6 動物看護総合実習承諾書

○ 利用目的
実習先からの実習受入の承諾を確認する。
○ 構成・内容
承諾のための同意事項を示す。
企業記入欄（企業名、代表者、所在地、TEL、FAX）
記載事項
＊実習指導者による指導を行う
＊指導者は実習記録の確認と評価を行う
＊実習時期内容は申込書に基づく
＊動物病院名
＊動物病院住所
＊承諾者名（動物病院代表者）
＊承諾日時
＊連絡先
○ 利用方法
「動物看護総合実習申込書」に同封して送付する。
実習先動物病院院長、もしくは経営責任者から訪問のうえ受取る。もしくは、実習申込時に同封した返信用封筒にて学校へ返送を依頼する。

4．7 動物看護総合実習協定書

○ 利用目的
実習における双方の役割の明確化、実習期間内での不測の事態への対応、学生を含めた双方の禁止

事項についてお互いに文書で確認し締結する。

○ 構成・内容

動物看護総合実習における動物病院、学校、学生のそれぞれの役割や禁止事項、実習期間、目的、基本的役割、事故責任、機密保持、人権の尊重（ハラスメントの防止）、動物病院での活動の中止、有効期間などを記載する。

○ 利用方法

実習内容の確認ができた時点、実習前までに取り交わし学校・実習先双方にて、組織（企業）名、所在地、代表者名の記入、代表者印の押印をした協定書を2部作成し、双方で保管する。

4．8 動物看護総合実習誓約書

○ 利用目的

実習学生の実習時における遵守事項、禁止事項などについての確認と誓約を行う。

○ 構成・内容

実習学生の実習時の遵守事項、禁止事項などを明示、確認する。実習先企業名（動物病院名）、実習学生の記名、押印、住所及び連絡先を明記。

○ 利用方法

実習前までに実習先へ送付する（実習学生の記名、押印の上、学校へ提出し、学校で取りまとめた誓約書を実習先へ送付）。

4．9 カリキュラムマップ・履修歴チェックシート

○ 利用目的

コアカリキュラムの履修歴を事前に学生自身がチェック・確認し、ゴールシートの作成に活用すると同時に受入れ企業・動物病院と履修歴についての情報共有を図る。

○ 構成・内容

コアカリキュラムの一覧表にチェック欄を設定。各教科のキーワードや実施時期（学年、前期・後期）と時間数構成となる。

○ 利用方法

実習前教育の初段階時に履修歴チェックを学生自身でチェックをする。或いは、クラスメイトと話し合いながら確認する。

学生がチェックをした履修歴チェック表は受入れ企業（動物病院）とも共有する。

4．10 自己分析シート

○ 利用目的

ポートフォリオのゴールシートを完成させるための前提として、学生の自己分析を援助するためのツールである。

○ 構成・内容

動物看護総合実習における総括的な目標をより具体化した学生自身の目標設定に対して理解度の確認ができる構成となっている。

それらを踏まえたうえで、各段階の目的に対し、学生自身がどのような課題や目標をもって実習に臨むのかを確認できる構成となる。

○ 利用方法
実習前教育時の目標設定時に、明確な目標を持たせるために使用する。

4．11 ポートフォリオ

○ 利用目的
学習履歴やスキル、実績と実証するためのツールであり、インプットした成果を相手に伝えるために目的に沿って収集し、ファイリングする。
学生自身で実習の課題を見つけ、その課題への取組プロセスを記録したものを作成し、実習後に振り返りを行うことで、今後の取り組みに活かす。
○ 構成・内容
作成にあたっての留意事項・ゴールシート・計画表・実習記録・エピソードとエビデンスで構成。
○ 利用方法
目的、目標を設定し、自身がどうなりたいか、そうなるためにどのようにスキルを習得したいのかを明確化し、達成できる(しやすい)具体的な計画をたてる。
日々の実習内容を記入し、実習中のエビデンスやエピソードを収集、記録する（個人の技能・思考・成果などの根拠を蓄積する）。
動物病院：毎日実習記録を確認し評価シート記入時の参考とする。

4．12 学生個人表

○ 利用目的
実習先に対して、実習学生の個人情報を必要な範囲で提示する。
○ 構成・内容
実習生写真、学校名、学科名、学年、氏名（ふりがな）、生年月日、現住所、通学経路、電話番号、取得資格、長所・自己PR、就職希望先の特徴、診療体制、志望動機等。
○ 利用方法
「動物看護総合実習申込書」送付時に添付する。

4．13 ① 動物看護総合実習手引き（学生）

○ 利用目的
学生が実習に臨む際の諸心得や注意をしっかりと理解させる。
○ 構成・内容
実習の目的目標、履修時間と実習計画、実習前に達成すべき課題、実習のための準備、実習の心得（留意点・観察・記録・報告・服装身だしなみ）、守秘義務・ハラスメント、態度・言葉遣い、勤務時間（出勤時間）、健康管理、実習の修了後の振り返りを示す。
＊実習の目的
＊実習の目標
＊履修時間と実習計画
＊実習前に達成すべき課題
＊実習のための準備
＊実習の心得（留意点・観察・記録・報告・服装身だしなみ）

＊守秘義務・ハラスメント
＊態度・言葉遣い
＊勤務時間（出勤時間）
＊健康管理
＊実習の修了
＊実習後の振り返り
○ 利用方法
使用対象：学生
利用方法：動物病院実習が潤滑に且つ学習の効果を得られるよう、実習の意義や心得をしっかりと理解させる。
使用タイミング：実習前オリエンテーション時、実習中、実習後振り返り時。

4．13 ② 動物看護総合実習手引き・指導要領

○ 利用目的
教員指導者の指導ツール。学生の指導に利用する。
○ 構成・内容
内容は4.13 ①と同じ。特に大切な指導ポイント、観点を記載する。
○ 利用方法
使用対象：学校教員
利用方法：事前学習において、学生自身が実習中に注目したい着眼点を認定し、これまでの学習した内容とつながることを意識させ、自主性を促すよう指導する。また、学生の不安や心配を取り除き、主体的に取り組めるよう指導を行う。
使用タイミング：実習前のオリエンテーション時。

4．14 動物看護総合実習項目チェックリスト

○ 利用目的
動物看護総合実習の各段階において、学生が学ぶ動物看護師の役割や機能、及び技術面の習得度を自身で評価し課題を見つける。
○ 構成・内容
環境、食事、排泄、活動・休息、身体の清潔、呼吸・循環を整える、創傷管理、投薬の技術、症状・生体機能管理、感染予防、安全管理、動物医療コミュニケーション、手術前後の看護などの実習項目について、理解型・体験型・実務型ごとにA・B・Cの3段階で自己評価が可能な構成。
○ 利用方法
学生が動物看護総合実習の各段階で毎日記入し、自身の学習理解を深めるために使用する。学生自身で記録することにより実習内容を振り返り、自己の課題点や改善点を見出すことが重要であることを認識させる。
学生：各段階の実習で学生が記入する。なお、実習中に実習先（動物病院）が確認してもよい。
学校：実習後、教員と学生とが共有し実習内容を確認する。

4．15 動物看護総合実習自己評価シート

○ 利用目的

理解型実習・体験型実習・実務型実習で適正な評価が行えるようにする。

評価要素はNQF（National Qualifications Framework）から引用する。

○ 構成・内容

「知識と理解」「汎用的な技能」「職務上の技能（専門実践技能）（対人技能）（分析技能）（管理・指導技能）」「自律性と責任感」「倫理観とプロ意識」。それぞれの評価要素を4段階（4：非常に良い、3：良い、2：おおむね良い、1：かなりの努力が必要）で評価する。各評価基準も学生が判断しやすいような表現とする。

○ 利用方法

学生は自己評価することで実習の振り返りを行い、課題を見出す。教員は、学生が自発的に課題を見いだせるように指導する。基本的に学生の評価を尊重し、今後の成長に繋げられるように指導する。

4．16 ツール名：動物看護総合実習科目評価シート

○ 利用目的

動物看護総合実習における評価を行なう。評価要素は、NQF（National Qualifications Framework）から引用する。

○ 構成・内容

「知識と理解」「汎用的な技能」「職務上の技能（専門実践技能）（対人技能）（分析技能）（管理・指導技能）」「自律性と責任感」「倫理観とプロ意識」を示す。

○ 利用方法

動物病院：体験型実習・実務型実習

「職務上の技能（専門実践技能）（対人技能）（分析技能）（管理・指導技能）」

教員：理解型実習・体験型実習・実務型実習

「知識と理解」「汎用的な技能」「自律性と責任感」「倫理観とプロ意識」基本的に学生には評価のフィードバックは行わない。学生にフィードバックする場合は、動物病院の承諾を取る。

4．17 動物看護総合実習学習成果指標 【体験型・実務型】

○ 利用目的

動物看護総合実習の評価を行う際の評価基準の根拠を明確にするために作成され、学習成果指標に準拠した学習ユニット（動物看護総合実習）と、そこで養成されるコンピテンシーを定義し、4段階評価を行うための指標とする。

○ 構成・内容

評価項目要素は、NQF（National Qualifications Framework）の資格枠組みのレベル定義を活用し、「知識と理解」「汎用的技能」「職務上の技能（専門実践技能、対人技能、分析技能、リーダーシップ・管理技能）」「自律性と責任感」「倫理観とプロ意識」に区分している。動物看護総合実習の実習目標に対し、4段階で評価を行う際の具体的指標を設定する。

○ 利用方法

専修学校：

1．動物病院に対して、実習を依頼する際に提案書を活用し、評価基準に対し説明を行い、学習成果の

指標であることを理解させる。
2. 学習成果指標を通じて学生がどのように評価されるのか理解させる。
3. 評価を行う際に評価指標として活用する。
学生(実習生):
1. 学習成果指標を通じてどのように評価されるのか理解する。
2. 実習後の自己評価を行う際に活用する。
動物病院:
1. 実習前に評価基準の説明を受け、学習成果の指標であることを理解する。
2. 実習後の「職務上の技能」評価を行う際、評価基準として活用する。
動物病院 :「職務上の技能(専門実践技能)(対人技能)(分析技能)(管理・指導技能)」
専修学校 :「知識と理解」「汎用的な技能」「自律性と責任感」「倫理観とプロ意識」
評価基準に関しては、各学校のレベルや運用に合わせて設定を変えることも可能である。

4.18 ① 動物看護総合実習プログラム評価・改善資料(動物病院)

○ 利用目的
体験型実習・実務型実習の課題点を収集する。
○ 構成・内容
動物病院名・実習受入指導者情報・実習時期・連携での課題点・実習の課題点・学生の実習に対する姿勢や態度の課題点・評価に関する課題点・フィードバックに関する課題点・課題について検証し、その課題に対する改善提案を行う。
○ 利用方法
課題点の検出、及び改善提案を受け、プログラムの改善につなげる。

4.18 ② 動物看護総合実習プログラム評価・改善資料(学生)

○ 利用目的
体験型実習・実務型実習の課題点を収集する。
○ 構成・内容
動物病院名・実習受入指導者情報・実習時期・連携での課題点・実習の課題点・学生の実習に対する姿勢や態度の課題点・評価に関する課題点・フィードバックに関する課題点・課題に対する改善提案を示す。
○ 利用方法
課題点の検出、及び改善提案を受け、プログラムの改善につなげる。

6. ガイドライン導入推進委員会　活動報告

6-1. 実施委員会の目的、及び活動内容

ガイドライン導入推進委員会は、ガイドラインの作成作業を円滑に進めるため、事前に資料の収集や原稿の草案を作成した。また、学生の実習を受け入れる動物病院に対し、当事業で実施した調査データを踏まえ、課題点などを抽出。それに対応する改善案、運用方法を検討した。今後、このガイドラインが専修学校で導入され教育効果を目的とした実習が実施されるよう、獣医師会、獣医師関連団体へ情報の提供や説明を行い、実習動物病院での指導方法、評価方法等についての説明会、研修も行う。

6-2. 実施委員会の実施記録

会議名	第1回　ガイドライン導入推進委員会
開催日時	2019年9月6日（金）　11：30～13：30（2.0h）
場所	TKP東京駅セントラルカンファレンスセンター10階ミーティングルーム10E 東京都中央区八重洲1丁目8−16　新槇町ビル
出席者	①　委員 　下薗　惠子、横田　淳子、坂元　祥彦、山下眞理子、青木　理子 ②　事務局 　會田　早秋 ③　オブザーバー 　西澤　亮治 ○　出席者　委員5名、事務局1名　オブザーバー1 名　合計7名

○　2019年9月6日（金）　第1回　ガイドライン導入推進委員会

議題等	〈会議の目的・内容〉 動物病院実習ガイドライン、及び教育支援ツールの作成～完成に向けて、スケジュールと作業内容、課題点を確認し、各委員会の開催予定、最終となる事業報告会までの日程を調整した。また実習の実証実施校についても協議し、10 校に依頼をすることとした。今年度の事業スタートに際し、昨年度までの事業成果を点検し、修正や見直しが必要と思われるもの、継続して課題となっているものを整理、共有した。実習前教育での教育支援ツールの利用方法（利用するタイミング、使い方など）も協議した。 〈会議の次第〉 1. 「理解型」「体験型」実習評価指標の確認 2. 実習前教育（説明の仕方などの確認） ＊手引き・指導要領（「理解型」「体験型」） ＊自己評価の説明の仕方 ＊履修履歴（指導方法） ＊ポートフォリオ（説明の仕方） ＊学生個人表（記入にあたる注意点説明の仕方） 3. ガイドラインに掲載する内容 ＊ガイドライン完成（暫定版）を用意し12月に三菱総研へ提出する 4. ガイドライン活用した実習についての指標、工程の確認 5. 導入に向けての推進方法の検討 ＊地元獣医師会との連携 ＊各校に在籍する開業獣医師非常勤講師との連携等 〈会議資料〉 ・デュアル教育の準備～実施～評価・改善フロー ・分野別ガイドライン作成要領 ・動物看護総合実習「体験型」科目評価表 ・動物看護総合実習　手引き ・動物病院総合実習　自己評価シート ・院総合実習　学生成果指標　体験型・実務型 ・全体スケジュール表

会議名	第2回 ガイドライン導入推進委員会
開催日時	2019年10月3日（木） 13:30～15:30（2.0h）
場所	国際動物専門学校4階会議室／東京都世田谷区上馬4丁目3−2
出席者	① 委員 下薗 惠子、横田 淳子、坂元 祥彦、山下眞理子、青木 理子 ② 事務局 會田 早秋 ③ オブザーバー 西澤 亮治 ○ 出席者 委員5名、事務局1名 オブザーバー1 名 合計7名

議題等	〈会議の目的・内容〉 教育支援ツールについて、それぞれの内容、文章、用語、その使い方を点検した。10月27日に開催を予定している教職員向けの説明会について、その内容、資料、要点を整理した。 〈会議の次第〉 1. 中間報告書について 2. 評価指標の確認（体験型・実務型） ※第１回 ガイドライン作成委員会議事録の確認（8月2日開催） 3. ポートフォリオ確認 4. 指導要領の確認 5. 実証における検証事項 6. 第2回ガイドライン作成委員会 開催時期 7. 第2回実施委員会 開催時期 8. 10月27日 実証委員会および研修について 9. 10月27日 謝金について 10. 10月27日 三菱総研参加について 11. 実施委員会から見出された「ガイドライン使用実習の課題」 ・教育動物病院制度の検討 ・動物病院へのメリット、デメリット（有償・実習費用、就活～採用、指導担当者の不足、負担など） ・獣医師会、獣医師団体との連携方法の検討 ・学校内で授業を持つ開業獣医師（非常勤）の実習で活用する方法の検討 ・評価、特に実習先動物病院の評価方法、範囲、評価者 等 〈会議資料〉 ・提出用シート（ガイドライン作成事業の報告用） ・学習成果指標 ・動物看護総合実習 指導要領（教員）

	・動物看護総合実習　成果指標（体験型）（実務型） ・動物看護総合実習　『体験型』『実務型』科目評価表 ・動物病院総合実習　自己評価シート（体験型）（実務型） ・第1回ガイドライン作成委員会（8月2日開催）　議事録 ・全体スケジュール表 ・コンピテンシー事業（スケジュール案、学習成果指標の検討、等）

○　2019年10月3日（木）　第2回　ガイドライン導入推進委員会

会議名	第3回　ガイドライン導入推進委員会
開催日時	2019年11月11日（月）　11：30～13：30（2.0h）
場所	国際動物専門学校2階会議室／東京都世田谷区上馬4丁目3−2
出席者	①　委員 　下薗　惠子、坂元　祥彦、山下眞理子 ○　欠席　横田　淳子、青木　理子 ②　事務局 　會田　早秋 ③　オブザーバー 　西澤　亮治 ○　出席者　委員3名、事務局1名　オブザーバー1 名　合計5名

○　2019年11月11日（月）　第3回　ガイドライン導入推進委員会

議題等	〈会議の目的・内容〉 内容、構成などをチェックするためのガイドラインを準備し、それを元に校正、点検を行った。また、11月18日に開催する第3回ガイドライン作成委員会に向けて、検討課題を整理、その関連の資料を準備した。前回から引き続き、教育支援ツール類の内容やその利用方法、使用するタイミングなどを検討し、修正が必要なものは反映した。 〈会議の次第〉 1. ガイドライン下書き用に沿って内容のチェック、確認 2. ガイドライン構成と項目、目次の整理 3. 11月18日に実施する第3回ガイドライン作成委員会での検討課題の整理 〈会議資料〉 ・認定動物看護師分野ガイドラインの下書き（ガイドラインの校正用） ・動物看護総合実習　目的・目標一覧表 ・動物看護総合実習成果指標　体験型・実務型 ・ガイドラインを用いた動物病院実習説明（PP） ・委員会開催スケジュール表 ・教育支援ツールの内容説明書 ・ガイドラインを用いた動物病院実習（2.3　学習工程） ・3.2　デュアル教育の企画（Plan） ・4.1　実習前・実習後教育（指導要領） ・「ポートフォリオ（実習計画書）」 ・受入先指導手順 ・自己分析シート ・自己評価シート ・カリキュラムマップ、ツリー、説明書

会議名	第4回　ガイドライン導入推進委員会
開催日時	2019年12月23日（月）　10:30～12:30（2.0h）
場所	AP東京八重洲通り7階Vルーム／東京都中央区京橋１丁目10番7号　KPP八重洲ビル
出席者	① 委員 下薗　惠子、坂元　祥彦、山下眞理子、横田　淳子、青木　理子 ② 事務局 會田　早秋 ③ オブザーバー 西澤　亮治 ○ 出席者　委員3名、事務局1名　オブザーバー1 名　合計5名

議題等	〈会議の目的・内容〉 各委員会での協議、意見交換を経て、暫定版のガイドライン、教育支援ツールを集約した。その内容、構成、文章、使用する用語、支援ツールは使用するタイミングと前後の関連など、最終的なチェックを行った。この日の午後には実施委員会の開催を予定しているため、判断に迷う部分、課題点等については、その委員会で諮るようにした。印刷のスケジュールも迫ってきているため、掲載する内容全般についての確認を慎重に行った。 〈会議の次第〉 1. ガイドライン／暫定版、及び支援ツールの内容確認 2. 最終完成版までの追記事項、不足している内容の確認 3. 今後のスケジュール 〈会議資料〉 ・実習ガイドライン／暫定版 ・教育支援ツール資料集 ・全体スケジュール表

○ 2019年12月23日（月） 第4回 ガイドライン導入推進委員会

会議名	第5回 ガイドライン導入推進委員会
開催日時	2020年1月22日（水） 13:30～15:30（2.0h）
場所	国際動物専門学校2階会議室／東京都世田谷区上馬4丁目3−2
出席者	① 委員 下薗 惠子、坂元 祥彦、山下眞理子 ○ 欠席 横田 淳子、青木 理子 ② 事務局 會田 早秋 ③ オブザーバー 西澤 亮治 ○ 出席者 委員3名、事務局1名 オブザーバー1 名 合計5名

議題等	〈会議の目的・内容〉 印刷入稿前の最終の校正、チェックを行った。特にリスクマネジメントとこれからの課題と対策の部分は入念に協議し、文章、表現、用語を選択した。 〈会議の次第〉 1. ガイドライン、及び支援ツールの最終確認 2. 今後のスケジュールの確認、共有 〈会議資料〉 ・実習ガイドライ最終チェック用 ・教育支援ツール最終チェック用

○ 2020年1月22日（水） 第5回 ガイドライン導入推進委員会

会議名	第6回 ガイドライン導入推進委員会
開催日時	2020年2月17日（火） 16：00～18：00（2.0h）
場所	国際動物専門学校2階会議室／東京都世田谷区上馬4丁目3−2
出席者	① 委員 下薗 惠子、坂元 祥彦、山下眞理子、横田 淳子 ○ 欠席 青木 理子 ② 事務局 會田 早秋 ③ オブザーバー 西澤 亮治 ○ 出席者 委員4名、事務局1名 オブザーバー1 名 合計6名

議題等	〈会議の目的・内容〉 提出を間近に控えた事業報告書、成果報告書について構成、内容、文章・文言、表現、用語についての最終確認と修正を行い、提出までのスケジュールを確認した。また翌日、18日に開催する実施委員会、及び成果報告会の次第と進め方、発表内容の要点、特に訴求したい部分について協議、打ち合わせを行った。 〈会議の次第〉 1. 開会 2. 事業報告書の最終確認 3. 実施委員会の最終確認～準備 4. 成果報告書の最終確認～準備 5. スケジュールの確認 6. 成果報告会の進行、次第、発表のポイント 7. 閉会 〈会議資料〉 ・実習ガイドライン ・事業報告書　確認チェック用 ・成果報告書　確認チェック用 ・成果報告会　プログラム資料、次第

○ 2020年2月17日（月） 第6回 ガイドライン導入推進委員会

7. 実証委員会　活動報告

7-1. 実証委員会の目的、及び活動内容

実証委員会は、主に実際に実習を指導する立場にある専修学校の教員を委員として構成した。動物病院実習ガイドラインで示した理解型実習、体験型実習、実務型実習について、可能な限り専修学校において実証を行い、その結果を検証し、そこから得られた成果を、ガイドラインへ反映させる。そして今後の各専修学校への導入や円滑な運用に向け、教育支援ツールについても実証の結果を参考により良いものに修正していく。

7-2. 実証委員会の実施記録

会議名	第1回　実証委員会
開催日時	2019年8月22日（木）　12：15～12：55（40min）
場所	中央工学校附属日本語学校（12号館）3階1231R／東京都北区東田端1丁目4−8
出席者	① 委員 下薗　惠子、坂元　祥彦、楠田　晃、青木　理子、若山　明子、青柳　紘枝、西依ひとみ、佐藤絵里砂、大塚　謙伍、田上　真紀、沓名　竜佑、遠藤　純一、山下眞理子 ② 事務局 會田　早秋 ③ オブザーバー 西澤　亮治 ○ 出席者　委員13名、事務局1名　オブザーバー1 名　合計15名

議題等	〈会議の目的・内容〉 各専修学校で実習を実施する上で、動物看護総合実習への理解を深め、実習だけでなく前後の教育、評価、実習先である動物病院への依頼事項、教育支援ツールの活用などについても正しく把握してもらえるよう、詳細な説明を行った。また、委員は現場の教員の方で構成しているため、実際の運用面での意見や感想、要望をお聞きし改善すべき点を反映した。 〈会議の次第〉 1. 開会挨拶 2. 実証委員紹介 3. 各校の実証の状況報告 4. 閉会の辞 〈会議資料〉 ・2019年　文部科学省委託事業　事業計画書

	・専門学校に関係する「愛玩動物看護師法」Q＆A【①190810版】 ・カリキュラムマップ　履修履歴チェック 1. 動物看護総合実習　目的・目標一覧表 2. 学習心得・指導要領 3. 動物看護総合実習　学習成果指標・教科担当者評価表【理解型】 4. 自己評価シート　動物看護総合実習（理解型実習） 5. 動物看護総合実習　学習成果指標【体験型】 6. 自己評価シート　動物看護総合実習（体験型実習） 7. 動物看護総合実習「体験型」科目評価表 8. 認定動物看護師実数技術チェックリスト 9. 教科相関図（モデル） 10. ポートフォリオ 11. 学生の動物看護総合実習　受け入れのお願い 12. 動物看護総合実習に関する協定書 13. 誓約書 14. 動物看護総合実習生受入承諾書 15. 学生個人表

○　2019年8月22（木）　第1回　実証委員会

会議名	第2回　実証委員会
開催日時	2019年10月27日（日）　14：30～15：30（1.0h）
場所	日本獣医生命科学大学　E棟4階　セミナー室／　東京都武蔵野市境南町1－7－1
出席者	①　委員 下薗　惠子、坂元　祥彦、楠田　晃、青木　理子、若山　明子、青柳　紘枝、西依ひとみ、佐藤絵里砂、大塚　謙伍、田上　真紀、沓名　竜佑、遠藤　純一、山下　眞理子 ②　事務局 會田　早秋 ③　オブザーバー 桑原　明里 ○　出席者　委員13名、事務局1名　オブザーバー1 名　合計15名

議題等	〈会議の目的・内容〉 動物看護総合実習を適切に実施するため、改めてガイドラインの目的・目標、及び支援ツールの使用方法、タイミングなどについて確認し、学生からの反応や感想、意見も含め、意見交換を行った。実習の実証について、可能な範囲で取り組んでいただくよう依頼した。 〈会議の次第〉 1. 開会挨拶 2. 動物看護総合実習に関する改めての共有と課題点の説明 3. ポートフォリオに関する変更点や課題点 4. 実証実施校の所感 5. カリキュラムマップに関して 6. 意見交換 〈会議資料〉 1. 学生個人表 2. 教員　旧コアカリキュラムによるチェック項目（新旧対応表） 3. 実習依頼状 4. 実習手引き（学生）指導要領（教員）理解型・体験型・実務型 5. 実習先　協定書 6. 実習先　実習承諾書 7. 実習先　実習申込書 8. 動物看護総合実習「体験型」「実務型」科目評価表 9. 動物看護総合実習ポートフォリオ　ゴールシート 10. カリキュラムマップと履修歴チェック項目　カリキュラム相関図　キーワードツリー 11. 動物総合実習目的・目標一覧表 12. 動物病院実習フロー 13. 実証評価アンケート

○ 2019年10月27（日） 第2回 実証委員会

会議名	第3回 実証委員会
開催日時	2020年1月19日（日） 13:30～15:30（2.0h）
場所	AP東京八重洲通り 12階Fルーム／ 東京都中央区京橋1－10－7 KPP八重洲ビル
出席者	① 委員 下薗 惠子、坂元 祥彦、楠田 晃、青木 理子、若山 明子、青柳 紘枝、西依ひとみ、 大塚 謙伍、田上 真紀、沓名 竜佑 ○ 欠席 佐藤絵里砂、遠藤 純一、山下眞理子 ② 事務局 會田 早秋 ③ オブザーバー 西澤 亮治 ○ 出席者 委員10名、事務局1名 オブザーバー1 名 合計12名

議題等	〈会議の目的・内容〉 まだ実習が修了していない専修学校もあるが、各校での実証結果、事前学習、事後学習の内容、実習先の動物病院の感想や反応、実習を経験した学生の感想、支援ツールを実際に使用して感じたこと、など委員より発表して頂き、活発な意見交換を行った。また共通する課題も見出すことができ、今後の取り組み、対応への準備が整ったと思われる。今後、動物看護総合実習が各専修学校で円滑に導入できるよう、運用や指導者への研修、獣医師会や動物病院への依頼内容等を再点検する。ガイドラインは完成したが、様々な意見や要望も取り入れ、今後もアップデートしていくように考える。 〈会議の次第〉 1. 開会挨拶 2. 動物看護総合実習に関する課題点・課題点の共有 3. 各校での実証結果について 4. 実証実施校の所感 5. 意見交換 6. 閉会 〈会議資料〉 1. 動物病院実習ガイドライン最終チェック用 2. 教育支援ツール集最終チェック用 3. 実証結果集計 4. 2月18日（火）成果報告会の案内

○ 2020年1月19日（日） 第3回 実証委員会

7-3. 実証結果と課題

＜実施体制とその他機関＞

2019年度事業 実証実施校／10校	所在地	実証動物病院数／その他機関	
宮崎ペットワールド専門学校	宮崎市	5	
大阪ペピイ動物看護専門学校	大阪市	1	
愛犬美容看護専門学校	札幌市	5	（公社）北海道獣医師会
専門学校ちば愛犬動物フラワー学園	千葉市	5	（公社）千葉県獣医師会
中央動物専門学校	東京都北区	1	
穴吹動物専門学校	福山市	1	
河原アイペットワールド専門学校	松山市	1	
国際ペットワールド専門学校	新潟市	2	
国際動物専門学校	東京都世田谷区	3	（公社）東京都獣医師会
大宮国際動物専門学校	大宮市	1	

※この他、(一社)日本小動物獣医師会、(公社)日本動物病院協会、(一社)愛媛県開業獣医師会

＜実施方法等＞

○ 計画

	対象学年	実施時期	参加学生数／実施校
理解型実習	1年生	6月～8月	1～3名／6校
			クラス40名全員（2クラス）／2校
体験型実習	2年生	6月～8月	1～6名／10校
実務型実習	卒業年度生		
	2年制の場合	7月～8月	2校
		12月～1月上旬	3校
	3年制の場合	夏休み期間（8月）	

それぞれ事前学習、事後学習も行う。

そのために、実証前に各校指導担当者の理解促進を本事業（実証会議）にて行う。

○ 実証の実施結果

理解型実習　実証実施内容				
実施校　6校	学生数・学年／動物病院数			実施時期
愛犬美容看護専門学校	7	1年生	18	2019年6月
国際動物専門学校	79	1年生	1	2019年7月
大宮国際動物専門学校	85	1年生	1	2019年7月24日、26日
専門学校ちば愛犬動物フラワー学園	5	1年生	5	2019年9月
アイペットワールド専門学校	25	1年生	1	2019年10月12日～12月8日
穴吹動物専門学校	1	1年生	1	2019年12月中旬
実証参加学生の合計／動物病院数	202　人		27	

体験型実習　実証実施内容				
実施校　4校	学生数・学年／動物病院数			実施時期
大阪ペピイ動物看護専門学校	2	2年生	1	2019年8月上旬・下旬
穴吹動物専門学校	1	2年生	1	2019年12月中旬
国際ペットワールド専門学校	2	2年生	2	2020年1月中旬
中央動物専門学校	1	2年生	1	2020年1月中旬
実証参加学生の合計／動物病院数	6　人		5	

実務型実習　実証実施内容				
実施校　3校	学生数・学年／動物病院数			実施時期
愛犬美容看護専門学校	13	2年生	13	2019年6月
宮崎ペットワールド専門学校	5	2年生	5	2019年8月1日～9月30日
国際動物専門学校	4	3年生	2	2019年10月
実証参加学生の合計／動物病院数	22　人		20	

・理解型、体験型、実務型、それぞれで事前学習、事後学習を行った。
・そのために、実証前に各校指導担当者の理解促進を本事業（実証会議）にて行った。

○ 実施方法・内容
＜事前学習＞
実習の目的を理解する。
カリキュラムツリーにて動物病院実習の学内授業との関係や動物病院実習の意義を確認する。
履修歴チェック、ポートフォリオ（目標）（具体的計画）、動物病院宛の書類を作成する。

＜実習＞
ポートフォリオを活用し、実習記録、学び得たことを記録する。

実習技術チェックリスト（行えた業務記録）をつける。

＜事後教育＞
実習自己評価、技術チェック、ポートフォリオより課題の見出し、それらを発表する。
教育方法として学生が主体的に学ぶように指導を工夫する。

○ 学生の参加人数 計画と実証

	理解型実習		体験型実習		実務型実習	
	計画	実証	計画	実証	計画	実証
宮崎ペットワールド専門学校	−	−	5〜6	−	5	5
大阪ペピイ動物看護専門学校	2	−	2	2	2	−
愛犬美容看護専門学校	3	7	5〜7	−	13	13
専門学校ちば愛犬動物フラワー学園	5	5	5	−	5	−
中央動物専門学校	1〜2	−	2〜4	1	2〜4	−
穴吹動物専門学校	2	1	2	1	2	−
河原アイペットワールド専門学校	3	25	−	−	3	−
国際ペットワールド専門学校	−	−	−	2	5〜10	−
国際動物専門学校	80	79	80	−	4	4
大宮国際動物専門学校	80	85	80	−	−	−
学生の実証参加人数合計		202		6		22

○ 今後のガイドラインを使用した実習実施予定（実証校10校のうち9校 ※1校は実施未定）

	理解型実習	体験型実習	実務型実習
A校	2020年	2020年	2020年
B校	2020年	2020年	2021年
C校	2020年	2021年	2020年
D校	2021年	2021年	2021年
E校	2020年	ー	ー
F校	ー	2020年	ー
G校	ー	2020年	ー
H校	ー	ー	2021年
I校	2022年	2023年	ー

生徒の参加条件	
報酬の有無	☐ 有り ☑ 無し

今回の実証の結果から、学生全員、例えば1クラス30名から40名が実習に臨む際の指導方法が課題として確認できた。各専修学校で実証を担当した教員から、「事業で実証した事前教育・事後教育は少数の学生であったため、十分な指導が可能であったが、全学生（学生数が増える場合）となると事前・事後教育の時間が不足することが予測される」という感想があった。そのため一案として、動物看護総合実習の時間数90～180時間を、全て動物病院で行う実習に充てるのではなく、コアカリキュラムの授業時間内に組み込む、もしくは他教科と連携して事前学習、及び事後学習を行うことを検討できればと考える。

7-4. 事業成果の活用

本事業は、現在実施されている認定動物看護師養成のための、一般財団法人動物看護師統一認定機構が推奨しているコアカリキュラムで示されている、動物病院や企業内での実習「動物看護総合実習」を対象としたガイドラインを作成することが目的である。これに取り組む理由としては、現在行われている動物病院での実習が、実施時期や基礎科目との連携、学内の実習との接続性等が明確になっておらず、実習における目的・学習成果・評価についても曖昧であるという課題が存在していたからである。

今後の愛玩動物に対する医療の高度化と、チームで行う動物病院業務への貢献という観点から、さらなる実践的な能力の向上とその能力の標準化を図る事が、動物看護師養成教育に期待される。2019年6月に動物看護師の役割の拡大、質の向上、業務の適正化を図ることを目的に制定された「愛玩動物看護師法」においても、この教育効果を目的に作成された動物病院実習ガイドラインが、動物看護師の国家資格化の目的に則して活用され、同時に、本事業の成果がその一助となれば幸いである。

現在、多くの国家試験では、その実践能力を高めるため、企業との連携による企業実習は教育課程プログラムに組み込まれている。さらには受験要件としても設定され、知識や技能を実践の場で修練する機会として位置づけられており、その際には、本事業でのガイドラインの活用が可能な範囲であると推察される。

最終的には、本ガイドラインが示すものは、指定養成所の要件との整合性や教員要件とも密接に関係するものと推察される。そのため、関係省庁との連携や調整を図り、活用を図る所存である。

8. 研修会

8-1. 研修会の目的

本年度事業では、専修学校の教員、実務担当者を対象とした教員研修／2019年8月22日（木・会場／中央工学校附属日本語学校）と、動物看護師を対象とした研修／10月27日（日・会場／日本獣医生命科学大学）を開催した。

動物看護総合実習は、学生の就職・動物病院の採用を目的としたものではなく、教育・学習を目的としていること、実習前・実習後の学内での教育も重要であると位置付けおり、相応の準備と時間が必要となる。そのため、実際の指導を担当する専修学校の教員、及び主な実習先となる動物病院側の理解、指導担当者の養成が必須となる。研修では、3段階に階層化した実習ガイドラインの説明と事前・事後教育での実証活用事例とあわせ、各種の教育支援ツールの利用方法と使用するタイミングについての説明を行った。

8-2. 研修会の実施記録

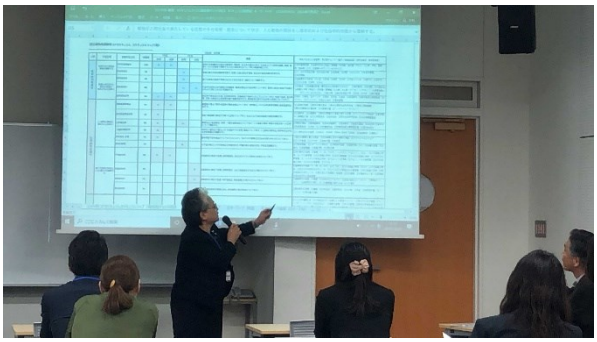
研修名	第１回　ガイドライン研修会／教職員研修
開催日時	2019年8月22日（木）　13:00～16:00（3.0h）
場所	中央動物専門学校　別館（19号館）1階1915R／東京都北区東田端1丁目8−11
講演者	下薗　惠子　　一般社団法人全国動物教育協会　会長 坂元　祥彦　　宮崎ペットワールド専門学校　校長 山下　眞理子　国際動物専門学校　教育担当顧問 青木　理子　　大阪ペピイ動物看護専門学校　副校長
参加者	専修学校教職員　57名

○　2019年8月22日（木）　第1回　ガイドライン研修会

研修会の内容	〈研修会の目的・内容〉 専修学校で、実際に学生の実習指導を担当する教職員向けに、動物看護総合実習について理解を深め、適切な教育効果の得られる事前教育～動物病院実習～事後教育を実施できるよう、事業の概要、ガイドラインの説明、教育支援ツールの使用方法、使用タイミングについて、説明を行った。 〈研修会の次第〉 1. 開会挨拶／下園委員 事業概要の説明。加えて、動物看護総合実習と愛玩動物看護師法の成立に依る臨地実習との関連を説明し、重要性について紹介。 2. ガイドラインを用いた動物病院実習の概要／坂元委員 理解型、体験型、実務型の3段階の実習の目的・目標や、その運用方法を説明。あわせて評価の基準についても紹介。 3. 動物看護総合実習の目的・目標と準備種類について／山下委員 カリキュラムマップと履修歴チェックの活用方法を説明。 4. 動物看護総合実習実施校の事例発表／青木委員 教育支援ツールについて紹介。特にポートフォリオの利用方法、記入の仕方、学生への指導方法、振り返りと活用について説明。 5. 質疑応答 6. 閉会 〈研修会配布資料〉 1. 動物看護総合実習　目的・目標一覧表 2. 学習心得・指導要領 3. 動物看護総合実習　学習成果指標・教科担当者評価表【理解型】 4. 自己評価シート　動物看護総合実習【理解型】 5. 動物看護総合実習　学習成果指標【体験型】 6. 自己評価シート　動物看護総合実習【体験型】 7. 動物看護総合実習「体験型」科目評価表 8. 認定動物看護師実数技術チェックリスト 9. 教科相関図（モデル） 10. 動物看護総合実習ポートフォリオ 11. 学生の動物看護総合実習　受け入れのお願い 12. 動物看護総合実習に関する協定書 13. 誓約書 14. 動物看護総合実習生受入承諾書 15. 学生個人表 16. カリキュラムマップ　履修履歴チェック

研修名	第2回　ガイドライン研修会／動物看護師向け研修
開催日時	2019年10月27日（日）　15:50～17:00（1h10min）
場所	日本獣医生命科学大学　E棟2階　中教室　／　東京都武蔵野市境南町1－7－1
講演者	下薗　恵子　　一般社団法人全国動物教育協会　会長 坂元　祥彦　　宮崎ペットワールド専門学校　校長 山下　眞理子　国際動物専門学校　教育担当顧問 青木　理子　　大阪ペピイ動物看護専門学校　副校長
参加者	現職の動物看護師　28名

○　2019年10月27日（日）　第2回　ガイドライン研修会



研修会の内容	〈研修会の目的・内容〉 専修学校で動物看護総合実習を円滑に導入～実施していく上で、学生の実習を受け入れる動物病院の理解と協力は必須である。特に学生の実習を指導、評価を担当する動物看護師の役割はより重要となるため、この動物看護総合実習の目的・目標、指導方法、評価について理解を深めてもらうことは大きな課題である。そのため動物看護師を対象に、動物看護総合実習で使用するガイドラインの詳細な説明と教育支援ツールの使用方法、使用タイミングについて紹介した。動物病院、及び現職の動物看護師へ向けた研修会の実施、情報の提供は今後も継続して行う。

	〈会議の次第〉 1. 開会挨拶／下薗委員 事業概要の説明。加えて、動物看護総合実習と愛玩動物看護師法の成立に依る臨地実習との関連を説明。 2. ガイドラインを用いた動物病院実習の概要／坂元委員 理解型、体験型、実務型の3段階の実習の目的・目標や、その運用方法を説明。あわせて学生の評価方法、基準についても紹介。 3. 動物看護総合実習の目的・目標と準備書類について／山下委員 カリキュラムマップと履修歴チェック等の教育支援ツールについて、その活用方法、使用するタイミングを説明。 4. 専門学校が行う学生指導について／青木委員 専門学校が実施している学生への教育、指導について説明。校内での事前教育、事後教育、評価、振り返りなどを紹介。 5. 質疑応答 6. 閉会挨拶／下薗委員 〈研修会配布資料〉 1. 動物看護総合実習　目的・目標一覧表 2. 動物看護総合実習　学習活動

8-3. 研修会の結果と課題

今事業では時間的な制約もあり、研修の実施は2回にとどまった（2019年8月22日、10月27日）。また、動物看護師を対象にした第2回の研修会は、動物看護師の参加人数が28名と少なく、動物病院に対する動物看護総合実習についての情報の提供や研修会の開催は、今後も積極的、継続的に、取り組む課題のひとつであることが確認された。

また、この実習では、学生の主体的な学びが教育成果として挙げられるため、実習指導者の資質として、ティーチングとコーチングの使い分け、実習受入先の指導者である現職動物看護師は、特にハラスメント対策として人権教育等も必須と考えられる。同時に、実習前・実習中・実習後の指導については同じ視点で教育連携を図る意味においても、専修学校教員と現職動物看護師がともに学びあう機会の創出も必要である。

これらの課題に対して、専修学校だけでなく、関係する獣医師会、動物病院、動物医療関連団体、組織等と密に連携をとり、より協力・協働していけるよう取り組む。

○　動物病院実習の研修と課題／現職の動物看護師の視点から

一般社団法人 日本動物看護職協会
会長　横田 淳子

動物看護教育における「動物看護総合実習」のうち特に臨床現場で行う動物病院実習は、学内で学んだ知識、技術を統合させ実践現場を体験することは動物看護学生の重要な経験となる。動物看護学生において効果的な実習ができるよう実習施設および教育機関が体制を整えていくことが必要となる。

動物病院実習を実施するにあたり、教育機関と実習施設が連携をとり、実習施設および実習指導者が「動物看護総合実習」としての動物病院実習の目的や目標を理解のうえ、学習としての指導を展開していくこととなる。

実習指導者は動物看護学生に対して、看護実践に関する実習指導、評価等を行う者であり、動物看護師として必要な基本的な知識、技術、態度を有し、教育的指導ができる者であることが望ましい。そのため実習指導者の指導ガイドラインの策定、研修会の開催が不可欠であろう。

実習指導者は研修会等にて、動物看護基礎知識、臨床動物看護技術に加えて指導、教育の役割を遂行するための能力を身につける必要がある。

・動物看護教育における動物病院実習の体系と意義
・動物病院実習の到達目標と到達度の共有
・実習指導者の役割
・学生が抱えやすい実習上の問題やその解決方法
・指導方法や教育的な関わり方
・意欲的な学習を支援する姿勢　など

本年度事業で2019年10月27日に開催した研修会は、日曜日の開催であったことと、この1回だけの開催であったことから、参加できる現職の動物看護師が少なく限定的であった。また、動物看護学生の動物病院実習が現職達の学生時代とは異なっている情報が、未だ周知できていない段階で、研修の必要性が理解できていなかったことも参加者数が少なかった理由の一つと考えられる。

今後、動物病院実習がガイドラインを用いて旧来の就職を目的とした実習ではなく、学習の成果を求めた実習に移行していくことを全国の動物病院で勤務する動物看護師達に認識してもらう工夫が必要と思われる。

最後に、動物病院実習を実施するにあたり、何よりも実習施設の動物看護教育の一環としての実習の受け入れの理解醸成が不可欠である。動物病院は小規模施設が多く、実習指導と日常業務との配分など実習に対しての人材の配置などが懸念される。より実習を効果的なものとするための実習指導者となる動物看護師、獣医師の事前研修、実習指導料などは今後の検討となるが、動物看護師は実践的専門職であることから、今後は動物看護教育課程において動物病院実習はより重要な意義を持つことが予測される。

謝　辞

平成29年度30年度、そして完成年度となります本年度まで3年間連続して「認定動物看護師養成における効果的な連携事業を行うためのガイドライン作成事業」に取り組むことができ、この度、動物病院実習ガイドラインが完成いたしました。

「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」の中で、我々は動物看護師の養成教育、いわゆる認定動物看護師教育カリキュラム2019（以下、コアカリキュラム）で示された「動物看護総合実習」のガイドラインを作成することに取り組んで参りました。コアカリキュラムでは、90～180時間を動物病院で実習を行うことになっております。

平成25年度から取り組みました委託事業において、初版のコアカリキュラムとなった動物看護師統一認定機構推奨コアカリキュラム32教科のコマシラバスを作成（平成26年度事業成果）しましたが、この動物看護総合実習（平成25年当時は「総合臨床実習」）のコマシラバスでは、

・特に実習の細目は提示しているものの教育指標としての体系化が成されていなかったこと。
・各専門学校においては学習の成果を求める実習というより就職を目的とした実習となっているケースが殆どであったこと。
・公益社団法人日本獣医師会等の統計資料にもありますように、小動物医療環境の多くが臨床に必要な最小規模で運営されているのが実情で、均一的な実習の実施には難しい面があったこと。

以上のことから、「総合臨床実習」のコマシラバスの活用は難しいと考えられており、動物看護師養成教育の高位平準化を整えるにあたり残された課題と感じておりました。

先行して受託していた医療事務分野の実習ガイドライン作成事業が開催した成果報告会に参加させていただいたことがきっかけとなり、動物看護師養成教育の高位平準化には動物病院実習のガイドラインを備えていくことが不可欠であると考え、事業申請をさせていただいた次第です。

3年の事業期間において、動物病院実習の実態調査、実習の階層化案の構築、目的・目標の設定、実習の評価指標、教育支援ツールなどを作成し、また実習実証も行い、本ガイドラインとして整えることができました。折しも本年度事業が始まる直前の2019年6月、愛玩動物看護師法が成立し、喜びと同時に国家試験カリキュラムへの関心が高まり、多くの国家資格では臨地実習にも重きを置いていることから、愛玩動物看護師の国家資格カリキュラムでも臨地実習となる動物病院実習が一定程度備わることと予想するところです。

しかしながら、就職を目的とした動物病院実習から、学習の成果・評価を行う実習への転換が必要となるところで、専門学校側にも実習受入先の動物病院側にも、実習の位置づけの意識転換が必要であると思われます。そして、愛玩動物の医療環境では多人数の学生が一度に実習を受けることのできる実習先・施設が少ないことから、実習内容の平準化や専門学校教員による巡回教育などの工夫をする必要もあります。

本ガイドラインの53、54ページに「本ガイドライン活用の課題と対策」として記載していますが、愛玩動物医療関係の先生方にご指導やご支援をいただきながら、専門学校の皆様方とともに動物看護師養成教育に相応しい臨地実習（動物病院実習）の在り方として整えていくことができればと思います。皆様、今後とも引き続きどうぞよろしくお願い致します。

本事業を進めるにあたり、ご多忙の中終始懇切なるご指導、ご指摘を頂きました委員の皆様、また調査や実証で多大なご協力いただきました教育機関、獣医師会、動物病院、関係団体・組織の皆様方にはこの場をお借りし、心より御礼を申しあげます。この成果報告書の15ページ～20ページにこの事業に協力をいただきました専修学校、団体、委員の皆様をご紹介させていただいております。ご高覧頂ければと存じます。

この事業は、「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」です。専門学校で就学した学生が社会に出て有能に活躍できるように、就職と教育とのマッチングに不具合がないように図ることも本事業の目的となっています。学習成果は動物看護教育のみならず、広く職業教育で必須となってきております。各専門学校のコアカリキュラム「動物看護総合実習」において、この動物病院実習ガイドラインをご活用いただき、動物看護師を目指す学生たちの教育・学習に役立つよう用いていただくことができましたら誠に幸いに存じます。ありがとうございました。

一般社団法人　全国動物教育協会
会長　下薗　惠子

2019年度文部科学省委託事業 「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」
（専修学校版デュアル教育）
認定動物看護師養成における効果的な連携事業を行うための
動物病院実習ガイドライン作成事業

成 果 報 告 書

2020年2月

一般社団法人　全国動物教育協会
〒154-0011　東京都世田谷区上馬 4-3-2（国際動物専門学校内）
TEL　03-5430-5121　FAX　03-5430-4448

● 本書の内容を無断で転記、掲載することは禁じます。

本報告書は、文部科学省の生涯学習振興事業委託費による委託事業として、一般社団法人全国動物教育協会が実施した2019年度「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」の成果をとりまとめたものです。